山梨県立大学地域研究交流センター 2016 年度研究報告書

年　報

山梨県立大学地域研究交流センター

目　次

地域研究交流センター長挨拶「地域連携 － 模索の日々」・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Ⅰ．交流・支援部門 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
　１．部門事業の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
　２．部門事業の実績と課題について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
【交流・支援部門の個別事業】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
　１．講師・委員等の応嘱 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
　２．学外からの相談などへの対応 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
　３．高校大学連携講座の実施 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
　４．教員の地域貢献活動への支援 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
　５．学生による地域貢献活動への支援 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
　６．大学周辺自治会との連携 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
　７．池田地区総合防災訓練への参加・協力 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
　８．「池田地区健康まつり」への参加・協力 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
　９．看護・福祉専門職支援 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
　10．その他 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

Ⅱ．情報発信部門 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
　１．情報発信部門事業の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
　２．情報発信部門事業の実績と課題について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
【情報発信部門の個別事業】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
　１．年報の発行 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
　２．ニューズレター「tobira」の発行 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
　３．ウェブサイトでの情報発信 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

Ⅲ．生涯学習部門 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
　１．部門事業の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
　２．部門事業の実績と課題について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
【生涯学習部門の個別事業】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
　１．地域研究交流センター主催事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
　　（１） 観光講座 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
　　（２） 観光講座の学外企画 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
　　（３） 秋季総合講座 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
　２．県民コミュニティーカレッジ事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
　　（１） 地域ベース講座 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
　　（２） 広域ベース講座 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
　３．地域連携講座 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
　　（１） 日本語・日本文化講座 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
　　（２） 幼児教育センター月齢別講座 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

（３） 平成 28 年度「子育て支援リーダー実力アップ講座」・・・・・・・・・・・ 25
（４） 平成 28 年度「ワクワク子育て親育ちプログラム」学習講座・・・・・・・ 30
（５） 東日本大震災被災地応援企画穴山町サンマまつり 2016・・・・・・・・・・ 33
（６） 「やまなしの女性史を学ぶ」講座「新しい女」・・・・・・・・・・・・・・ 33
４.学部共催事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
（１） ソーシャルワークセミナー2016（人間福祉学部福祉コミュニティ学科）・・ 35
（２） 英語特別講演会（国際政策学部）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
（３） 健康講座（看護学部）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
（４） 第 8 回保育リカレント講座（人間福祉学部人間形成学科）・・・・・・・・ 38
５.授業開放講座事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40

Ⅳ. 地域研究部門・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
１.部門事業の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
２.部門事業の実績と課題について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
【地域研究部門の個別事業】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
１.地域研究事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
（１） 穴切地区介護予防ネットワークの構築１
～在宅高齢者に対する介護予防ニーズに関する研究～ ・・・・・・・・・ 42
（２） 日本語を母語としない子どもたちの未来を考えるプロジェクト
―多言語による進路進学ガイダンス開催の意義― ・・・・・・・・・・・ 43
（３） 赤ちゃんの健康を守るための家族へのスキルアップ支援 ・・・・・・・・ 44
（４） 山梨県の小学校における「外国語活動」の効果的運営に関する実践的研究 III・・ 45
（５） 双方向型の高大連携による地域資源を活かした授業モデルの構築 ・・・・ 47
（６） 在留外国人の妊娠・出産・育児期における行政保健師の支援 ・・・・・・ 48
（７） 地域産業資源を活かしたビジネス開発と絹織物文化の再興を考える
―甲斐絹文化の地域産業史的研究と織物産業ネットワークの形成のために―・・ 49
２.研究報告会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50

Ⅴ. 戦略開発部門 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
１.部門事業の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
２.山梨県立大学地域研究交流センターの組織改編の内容（2017 年 1 月 17 日）・・・・ 52

Ⅵ. 事務局・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54
１.運営委員会記録 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54
２.組織図・委員名簿 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56
３.地域研究交流センター委員一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
４.年間の時系列記録 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58

資料・・ 63
フライヤー等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63

地域連携 － 模索の日々

地域との連携という観点から、どのような役割を公立大学は果たせるのか。模索を続ける日々のなか、地域研究交流センターでは、さまざまな事業を行っております。

そのなかで、観光講座（コーディネート：輿水特任教授）は、毎回約100名の受講者がある人気講座。観光という観点から、地域が抱える諸課題を取り上げていること、専門家による講義内容が充実していることなどが評価されていると思われます。熱心な受講の様子は、下の写真からも、おわかりいただけるでしょう。

［2016年度の観光講座受講風景］

同講座は、晩夏から初秋にかけて、日曜日の午後に実施しておりますが、休日は出られない、大学まで行けない、という声もあります。そこで、夜間・甲府中心地区で開催できないか、模索して参りました。その結果、山梨県生涯学習推進センターとの共催事業として、新たな観光講座「富士山の文化と自然を探る」を、山梨県庁に隣接した防災新館で開催できることとなりました。真冬の寒い時期ながら、木曜日18時半から二時間、通算四回に渡る講座に、延べ120名の社会人が聴講してくださりました。その要請の高さを、再認識した次第。今後も、社会人を対象とした学外・夜間講座の実施を増やし、多様な要望に応える方策と連携を提案できればと考えております。

2017年03月10日

地域研究交流センター長

二戸　麻砂彦

交流・支援部門

１．部門事業の概要

（１）講師・委員等の応嘱

学外の団体等からの依頼により、本学教員が講演、研修等の講師を務めるほか委員等へ委嘱された。

（２）学外からの相談等への対応

学外団体主催行事への協力、協力名義提供、施設提供などに対応した。

（３）高校大学連携講座の実施

平成 18 年度から実施している城西高校との高大連携講座を継続実施した。

（４）教員の地域貢献活動への支援

教員の地域貢献活動への支援メニューを企画・実施した。

（５）学生による地域貢献活動への支援

「学生優秀地域プロジェクト」認定・支援の制度に基づき、5 件のプロジェクトを認定・支援したほか、「学生活動支援室」の活動として、学生の地域貢献活動を促すための情報提供を行った。

（６）大学周辺自治会との連携

穴切地区連合会、池田地区連合会の自治会長と本学との懇談会を開催した。

（７）池田地区総合防災訓練への参加・協力

地域自治会との情報交換を契機に依頼された事業として、池田地区総合防災訓練において、看護学部の教員および学生が、6 年連続で救急救命・応急処置等についての講習・指導を行った。

（８）「池田地区健康まつり」への参加・協力

池田地区連合会からの依頼を受け、看護学部の教員と学生が「池田地区健康まつり」に参加・協力した。

（９）看護・福祉専門職支援

学習会や講演会等の企画を検討することを年度計画に挙げたが、企画立案には至らなかった。

２．部門事業の実績と課題について

大学周辺自治会と、情報交換会、地域自治会への参加・協力などを継続している。本学の、研究・教育の実績を活かして、地域や専門機関などと、足元の地域から地道に日常的に交流・支援を広げていく方向性をさらに学内全体で共有・展開していく。

（文責：青柳暁子）

【交流・支援部門の個別事業】

1．講師・委員等の応嘱

本学教員は学外の団体・自治体・学校等から依頼を受け、各種講師・委員等に応嘱している。平成 28 年度の応嘱状況を下の表に示す。

表１　平成 28 年度の講師・委員等応嘱状況

	依頼内容名			
学部名	講義･講演	委員等	その他	総計
国際政策	15	17	5	37
人間福祉	99	46	17	162
看護	94	100	58	252
職員等	2	0	5	7
総計	210	163	85	458

表２　平成 28 年度の講師・委員等応嘱状況の内訳：講義・講演

依頼者	国際政策	人間福祉	看護	職員等	総計
幼稚園・保育園	0	0	0	0	0
小中学校	1	1	7	0	9
高等学校	9	1	3	0	13
専門学校	0	0	6	0	6
大学・短期大学	0	1	14	0	15
県関係機関	2	21	15	0	38
市区町村	3	40	11	0	54
各種団体	0	5	27	2	34
医療機関・福祉機関等	0	5	6	0	11
省庁等	0	0	0	0	0
その他	0	25	5	0	30
総計	15	99	94	2	210

表３　平成 28 年度の講師・委員等応嘱状況の内訳：委員等

依頼者	国際政策	人間福祉	看護	職員等	総計
高等学校	0	2	0	0	2
大学・短期大学	0	0	1	0	1
県関係機関	10	13	33	0	56
市区町村	3	9	13	0	25
各種団体	0	0	48	0	48
医療機関・福祉機関等	0	0	0	0	0
省庁等	0	0	0	0	0
その他	4	22	5	0	31
総計	17	46	100	0	163

表４　平成 28 年度の講師・委員等応嘱状況の内訳：その他

依頼者	国際政策	人間福祉	看護	職員等	総計
小中学校	0	0	2	0	2
県関係機関	2	2	11	2	17
市区町村	0	1	4	2	7
各種団体	0	6	32	0	38
医療機関・福祉機関等	0	0	5	0	5
その他	3	8	4	1	16
総計	5	17	58	5	85

これによれば，全学でのべ 458 件の応嘱があり，内訳は，講義・講演が 210 件，委員等が 163 件，その他が 85 件であった。学部別には，国際政策学部が 37 件，人間福祉学部が 162 件，看護学部が 252 件，職員等が 7 件であった。

なお，本報告における数値は平成 29 年 3 月 3 日までに地域研究交流センターが把握した情報に基づくものである。ここに示した数値は，大学に対し文書による派遣依頼がなされた案件，もしくは大学が人員選定等に関与した案件に限定されており，これ以外にも把握されていない案件が存在すると考えられる。

２．学外からの相談などへの対応

地域研究交流センターは、学外と大学をむすぶ窓口として活動しており、さまざまな依頼・相談・照会等に対応するほか、学外団体主催行事への協力、協力名義提供、施設提供などに対応している。本年度も各種活動への協力名義提供、施設提供を行った。

３．高校大学連携講座の実施

「山梨県特色ある高校づくり支援事業」として甲府城西高校からの依頼を受け平成 18 年度より実施している看護・福祉系進路希望者を対象とした「家庭看護・福祉」の科目の高校大学連携講座を、本年度も継続して実施した。看護学部 8 名、人間福祉学部 7 名、計 15 名の教員の協力があった。教員名とテーマは以下の通りである。

表５　平成 28 年度　甲府城西高校高大連携授業

月日	担当先生	講義テーマ
5 月 17 日	多田幸子講師	保育実践の中の発達心理学
5 月 31 日	小尾栄子講師	学校のなかの看護って？ 救急法で体と向き合ってみよう
6 月 21 日	山中達也准教授	「聴くこと」は援助になるのか
8 月 30 日	大津雅之助教	自己覚知という概念を通して考えるソーシャルワーク
9 月 6 日	伊藤健次准教授	高齢者福祉を考える
9 月 13 日	村木洋子准教授	からだによく効く“音楽”とは
9 月 20 日	青柳暁子講師	睡眠とその支援
10 月 4 日	高木寛之講師	地域福祉を考える
10 月 18 日	小田切陽一教授	予防医学の力　身近な生活から考える
10 月 25 日	横森愛子講師	こどものがんについて
12 月 6 日	清水惠子教授	自殺予防教育
12 月 13 日	大久保ひろ美講師	看護と援助技術　－日常生活習慣を見つめようー
12 月 20 日	山田光子教授	リーダーシップとマネジメント
1 月 10 日	小山尚美講師・坂本律子助手	高齢者の言動を科学的に理解しよう
1 月 17 日	萩原結花講師	周産期にある母子への看護

４．教員の地域貢献活動への支援

（ア）教員への支援メニューの策定・周知

前年度に続き、教員が自主的に行う地域貢献活動を促進するために、教員を対象とした支援メニューを周知、実施した。周知したメニューは以下の通りである。

(a) センター主催の「地域交流・貢献活動」としての採択・実施

本学教員が主体的に企画・実施する県内特定地域での交流事業を対象とする。

内容に応じて、旅費、消耗品などを支援する。

(b) センター「支援事業」の認定・支援

センターの「支援事業」として認定し、報道機関への情報提供、センターのウェブサイトを通じた広報など、可能な範囲で支援する。

(c) センター「後援」等の名義の使用

名義使用により、センターがその趣旨等に賛同している旨の対外的表示ができる。教員が主体的に関与する事業のほか、学外団体から協力を依頼された事業で、本学の地域貢献として賛同・応援の意志表明をするにふさわしいものを対象とする。

(d) 学生ボランティアの募集協力

「学生活動支援室」を平成 19 年度に開設し学生による地域貢献活動の推進を行っている。この「支援室」を通じ、本学での学生ボランティア参加者募集等に協力することができる。

(e) その他

上記以外の支援メニューについても、今後検討していく。具体的なご要望などがあれば相談を受け付ける。

（文責：青柳暁子）

５．学生による地域貢献活動への支援

（１）「学生優秀地域プロジェクト」の認定・支援

「山梨県立大学地域研究交流センター『学生優秀地域プロジェクト』認定・支援制度　実施状況」を平成 20 年 6 月に定めた。これは本学学生又は学生団体が地域において実施する事業で、地域および本学に対してすぐれた貢献をしたものを認定し、本学学生による地域課題解決のための継続的な活動を推進することを目的としたものである。認定されたプロジェクトは、本学ウェブサイトで広報するほか、センターが可能な支援を行う。

実施要綱に基づき、平成 28 年度認定プロジェクトの選考を以下のプロセスで実施した。

（ア）教職員からの推薦

実施要綱では推薦の資格を有するのは本学教職員となっている。平成 28 年 12 月に教職員からの推薦を募った。その結果、5 件のプロジェクトが推薦された。

（イ）選考委員会による選考

センター長が組織した選考委員会において選考を行った。選考委員会のメンバーは、吉田理事、二戸センター長、兼清准教授、渡邊輝美准教授、青柳講師、事務局から中島副主査の 6 名であった。

平成 29 年 1 月 13 日に選考委員会が開かれ、協議の結果 5 件のプロジェクトの認定が決定された。

（ウ）認定

認定式を平成 29 年 1 月 25 日　12：30～12：50 に飯田キャンパス A 館 2 階大会議室にて開催した。

表６　平成 28 年度　学生優秀地域プロジェクト　認定一覧

プロジェクト名		実施主体	推薦者
1	世界 AIDS DAY イベント　in　山梨「AIDS×ART（見て，感じて，学ぶ）」	山梨県立大学ヘルスプロモーションクラブ	看護学部 本間隆之
2	福島の親子を山梨に招く第 9 回じゃんじゃんキャンプ	「山梨学生有志団体この指とまれ！」	国際政策学部 吉田均
3	認知症の看護を考えるプロジェクト	雨宮正樹、雨宮佑歩、北原遥菜、瀧口水理、宮阪祐香、竹中舞帆	看護学部 流石ゆり子 渡邊裕子 小山尚美
4	カタコト英語プロジェクト	カタコト英語プロジェクトチーム	国際政策学部 吉田均
5	子どもたちへの公演活動プロジェクト	おはなしクラブ	人間福祉学部 高野牧子

（２）「学生活動支援室」の活動

平成 19 年度より設置している「学生活動支援室」により学内に設置した掲示板を通じて、大学・教員に寄せられる学生ボランティア募集などの情報の学生への情報発信を行った。

６．大学周辺自治会との連携

（１）地域自治会との懇談会

平成 26 年度からいったん休止していた地域自治会との懇談会を今年度から再開した。

地域からは穴切地区自治会連合会長、自治会長 12 名、池田地区自治会連合会長、自治会長 1 名の 15 名が参加した。

本学からは、学長、副理事長、理事、地域研究交流センター長、総務課長、池田事務室長、地域研究交流センター長、センター交流・支援部門長、センター運営委員及び交流・支援部門委員、センター事務局の 11 名が参加した。

（２）鶴巻台西自治会内における「鶴巻台西いこいの会」と学生の交流

山梨県立大学サークル MOTTAINAI は、平成 24 年 6 月より、県立大学飯田キャンパス近隣（グランド南側）の鶴巻台西自治会の「鶴巻台西いこいの会」で、高齢者との交流事業を続けている。甲府市には高齢者が集まって交流する地域型サロンが 109 か所あり、「鶴巻台西いこいの会」もその一つである。平成 28 年は下記の活動を行った。

4 月

15・18・20 日：サークル説明会

16 日：穴切神社祭

24 日：自由人

25 日：ミーティング

5 月

8 日：自由人

9 日：新入生歓迎会

21 日：たこやきパーティ～五月病をふきとばす～（地域交流）

22 日：ピーチ＆グレープ定期総会

23 日：ミーティング

6 月

12 日：自由人

20 日：ミーティング

7 月

10 日：静岡旅行同行（ピーチ＆グレープ）

17 日：介護予防相談会

23 日：熱中症　うちわで扇いで　流しそうめん（地域交流）

27 日：山梨県こころの発達障害総合支援センター（イベントお手伝い）

28 日：ミーティング

8 月

27 日：甲府市障害者センター夏祭り

10 月

8 日：社会福祉村祭

8 日：赤い羽根共同募金

16 日：認知症ウォーキングスタンプラリー大会

17 日：ミーティング

23・30 日：介護予防相談会

29 日：甲府市農林業祭

11 月

3 日：介護予防相談会

5・6 日：富桜祭

13 日：ヴァンフォーレふれあいカップ 2016

14 日：歳末助け合い募金

21 日：ミーティング

27 日：ヴァンフォーレ甲府ふれあいサッカー教室

12 月

4 日：チャレンジボランティアフォーラム

19 日：ミーティング

1 月

16 日：ミーティング

2 月

19 日：子どもの広場

24 日：ほうとうパーティ（地域交流）

活動を振り返って

MOTTAINAI では、今年度も様々な活動を行った。新たに始まった活動はあまり多くなかったものの、従来からの活動を継続していくことができた。特に、昨年度から始まった活動（穴切神社祭、障害者センター夏祭り、甲府市農林業祭）に今年度も継続して参加できた。これらの活動から MOTTAINAI と地域とのつながりを実感し、今後も継続して地域活動に参加すること、学生にとってボランティアを身近に感じることのできる場づくりをサークルの目標にしていきたい。

（文責：青柳暁子）

７．池田地区総合防災訓練への参加・協力

本活動は今年度で 6 回目となり、本学のセンター事業において、地域交流・支援の大きな位置づけとなる活動である。本学は協力・指導団体として、池田地区連合自治会主催の総合防災訓練の企画会議から参加し、救護訓練を担当することとなった。

本学看護学部学生及び教員に対して、ポスターによるボランティアとしての参加を募った。ボランティアとして参加する学生及び教員へ事前の説明を行ったり、４会場毎の自治会代表者とボランティアとして参加する教員が綿密な打ち合わせをしたりした。

当日の救護訓練の内容は以下のとおりである。

日時：平成 28 年 8 月 28 日（日）8:30～11:30

場所：池田小学校、甲府西高校、甲府城西高校、西部市民センターの４か所

協力者：本学看護学部教員及び学生

【教員 8 名】流石ゆり子、村松照美、渡邊裕子、小尾栄子、小山尚美、坂本律子、茅野久美、渡邊輝美

【学生 18 名】4 年生：福田綾乃、竹島江梨加、3 年生：伊井彩美、井上春花、剣持理恵、小林真実、定月美彩代、庄司みの里、杉本菜月、杉山ありさ、滝口菜央、竹村友里奈、原悠子、2 年生：岩田麻央、佐藤夏那、武藤陽菜、吉田汐里、渡邉朱音

実施した内容について、3 か所の会場では災害時救助所で活用できる救護の知識と技術であり、甲府西高校においては心肺蘇生法と AED の使用法であった。

池田地区総合防災訓練には、555 名の地域住民が参加した。教員と学生は、4 か所の救護場所に分かれ、用意したパンフレット（「おぼえておこう災害時の応急処置」）を住民に配付し、それに基づいて応急処置や救護の知識と技術等について指導し、住民と共に実施した。また、参加した看護学部の学生が住民に応急処置の技術を積極的に指導し、明るい雰囲気のなかで住民と交流を深めていた。

身近にあるタオルやストッキング、段ボール等を活用した止血や創部の固定、レジ袋を代用した三角布の作成等に住民の関心が高かった。また、AED の使用方法について、住民は積極的に参加し満足していた。

住民の感想として、「昨年やったことでも忘れていることも多い。毎年この機会に練習することで，いざという時に皆で協力しながらできると思う」「毎年、県立大学の全面的な協力のおかげで、とても価値のある防災訓練になっていて感謝している」「レジ袋やストッキングがこんなに使えるのに驚いた。防災袋に入れておこうと思う」等の好評価を頂くことができた。

（文責：渡邊輝美）

８.「池田地区健康祭り」への参加・協力

2017 年3 月5 日（日）に甲府市西部市民センターで開催された「池田地区健康まつり」に、教員と看護学部の学生が参加した。池田地区連合会からの依頼を受け、7 年連続での参加・協力となった。住民129人の血圧・体組成・足指力・リアクションBG・血管年齢を測定した。教

員に見守られながら学生がこれらの測定を担った。昨年度、新たに設けたタッチパネルによる認知機能テストを今年度も希望者のみ実施した。このテストを受ける人の数が、昨年より多かった。

また、本学の教員及び学生、甲府市の地区担当保健師、西地域包括支援センターの看護師と連携して健康相談コーナーを行った。地域住民の測定結果をもとに、健康に関する相談に応じたり、パンフレットを用いて転倒予防体操や生活習慣病予防について指導したりした。

以上のことを行いながら、地域住民、学生および教員、甲府市の地区担当保健師、西地域包括支援センターの看護師が交流を深めた。

今年も地域の方々は学生や教員の参加を楽しみにしており、測定結果を真剣に見たり、相談したりしていた。学生にとっては、いろいろな方と話をしながら測定することによって、個々に応じた測定の技術を向上させたり、地域で健康に暮らしている方から直接お話を伺うことによって住民のニーズや生活実態を知ったり、保健師らから相談の仕方について学んだりする貴重な機会であった。また、参加住民の中には、大学での講義に協力してくださった経験者も多いため、学生も住民も教員も再会できたことを喜び、大学と地域の繋がりがさらに深まったことを確認できた。

看護学部が地域住民にとって身近な存在として受け入れられていることに感謝し、今後もさらに地域との交流・協働ができるようにしていきたいと考える。

今回参加した教員と学生は、以下の22 名である。

看護学部教員（6名）：流石ゆり子・小山尚美・小尾栄子・渡邊裕子・村松照美・渡邊輝美

看護学部学生（16 名）：内田愛実・有野かおり・伊井彩美・伊賀崎志穂・五十嵐碧・梅澤沙季・鈴木愛里・曽根裕也・鶴田由麻・中村葵・萩原亜也加・山中優美（3 年生）、池上芽衣・小松理紗子・古家美貴・山本葉月（2年生）

（文責：渡邊輝美）

９．看護・福祉専門職支援

交流・支援部門は、看護・福祉専門職支援コーディネーターの役割を持つことになっているが、看護・福祉専門職支援は実施できていない現状があった。

来年度から再開を計画しており、今年度は交流・支援部門のメンバー内での意見交換を行い、

看護福祉専門職支援の方向性確認と企画立案を行った。

（文責：青柳暁子）

１０．その他

（１）「第 19 回山梨チャリティーラン 2016」へのボランティア参加

今年も、障害児のサマーキャンプの資金集めのために 2016 年 6 月 11 日に開催された、「第 19 回山梨チャリティーラン 2016」で、本学学生 40 名がボランティアとして参加した。

このチャリティーマラソンは、山梨 YMCA・甲府ワイズメンズクラブ・山梨日日新聞・山梨放送などが実施している、伝統ある県内最大のチャリティーマラソンである。山梨 YMCA からの要請で、同大会への資金援助は可能だが、どうしてもランナーが集まらない企業のゼッケンを付け、代走者として参加した。本学から派遣した学生数は、1 団体から派遣したボランティア数では、県内最大となり、主催団体からは今年も高い評価を受けた。

（文責：吉田均）

情 報 発 信 部 門

１．部門事業の概要

（１）年報の発行

『2015 年度山梨県立大学地域研究交流センター年報』を 2016 年 5 月 31 日付けで発行した。

（２）地域研究交流センターニューズレター「tobira」の発行

地域研究交流センターニューズレター「tobira」を、本学と地域を結ぶ機関紙として発行し、県内外の関係機関・団体等に配布した。2016 年度は下記の通り発行した。

①第 28 号：2016 年 5 月 26 日発行

②第 29 号：2016 年 10 月 12 日発行

なお、今年度から年 2 回の発行となり(昨年度までは年 3 回)、大学の学年暦に合わせて、前期および後期の初めに発行した。

（３）ウェブサイトでの情報発信

ウェブサイトにおいて、センターの概要、生涯学習の案内、地域連携・支援の取り組み、地域研究、刊行物、活動記録等について情報発信した。

２．部門事業の実績と課題について

ウェブサイト、ニューズレター、年報の媒体を用いて、地域研究交流センターの事業活動について学内外に情報発信を行った。こうした情報発信は、事業記録としても有効であり、大学の説明や自己点検評価等にも活用されている。

2016 年度も、前年度と同様の体制のもとで、継続的に情報発信活動を行った。ニューズレターと年報については、おおむね予定通りのスケジュールで発行され、安定的に情報発信することができている。ニューズレターは、今年度から年 2 回の発行となったが、紙媒体での情報発信には独自の意義があり、今後とも内容の充実を図っていく必要がある。ウェブサイトについては、さらに的確で効果的な情報発信のために、センター全体のビジョンに基づきつつ、大学全体の広報活動との関係もふまえて、戦略的な情報発信を進めていく必要がある。

（文責：藤谷秀）

【情報発信部門の個別事業】

１．年報の発行

『2015 年度山梨県立大学地域研究交流センター年報』を 2016 年 5 月 31 日付けで発行した。この『年報』は、地域研究交流センターの事業実績を年度ごとにまとめたもので、地域研究交流センター説明資料や自己点検評価等の資料として活用されている。2009 年度までは年度末に年報を発行してきたが、2010 年度からは次年度の 5 月に発行予定時期を変更した。『2015 年度年報』も、予定通り 2016 年 5 月に発行することができた。

２．ニューズレター「tobira」の発行

地域研究交流センターニューズレター「tobira」は、本学と地域を結ぶ機関紙であり、本学教員の研究活動、本学の教員や学生による地域貢献活動、地域住民・関係機関・自治体等との連携事業を広く県内外に情報発信する役割を持っている。これまでは、ほぼ以下の紙面構成で発行してきた。

＊「私の研究室」: 本学教員の研究活動・成果の紹介

＊「地域とつながる」: 本学の地域連携・地域貢献事業の紹介

＊「私たちの一歩!」: 学生による地域貢献活動の紹介

＊「講座・イベントのお知らせ」: 講座・イベント等の告知

2010 年度からは(第 11 号以降)、「tobira」という誌名のもと、デザインと内容を一新し、取材・執筆・編集の多くの部分を学外編集者に委託することで内容の充実を図った。2011 年度からは(第 13 号以降)年 3 回発行してきたが、今年度から年 2 回の発行となった。大学の学年暦に合わせて、前期および後期の初めに発行することができた(第 28、29 号)。

発行部数は各回 4000 部で、このうち 2652 部を関係先 552 箇所へ発送した。内訳は、県関係(46 箇所)、市町村(28 箇所)、文化施設(55 箇所)、県内大学(10 箇所)、実習先(病院・福祉機関・幼稚園・保育所等、225 箇所)、企業(14 箇所)、県内非営利活動法人(52 箇所)、県内高校(52 箇所)、その他(70 箇所)である。このように、多くの関係機関・団体等に紙媒体で本学の情報を発信することは、独自の意義がある。

各号の概要は以下の通りである。

（１）ニューズレター「tobira」第 28 号(2016 年 5 月 26 日発行)

＊「私の研究室」兼清慎一准教授(国際政策学部) :「人の心を動かすことはできるのか　メディアを巡る試行錯誤と化学反応を楽しむ」と題して、NHK の記者生活での経験をもふまえながら、取材活動やメディア制作に関する研究・教育成果を紹介していただいた。

＊「地域とつながる」:「看護実践開発研究センター　認知症看護認定看護師教育課程」の取り組み　同課程主任教員の依田純子准教授(看護学部)に、認知症ケアの質の向上を目指して同センターに置かれている認知症看護コースについて、どのように高度で専門的な学び

の場となっているかを紹介していただいた。

＊「私たちの一歩!」：山梨甲府地区 BBS(Big Brothers and Sisters Movement)　保護観察少年や養護施設等の子どもたちへの学習支援、非行防止を視野に入れた啓発活動等に取り組んでいる BBS の活動について、代表の藤本達也さん、メンバーの望月友布奈さん(人間福祉学部学生)に紹介していただいた。

＊「講座・イベントのお知らせ」：6 月以降に開催予定の講座・イベント等の告知を行った。

（２）ニューズレター「tobira」第 29 号(2016 年 10 月 12 日発行)

＊「私の研究室」伊藤健次准教授(人間福祉学部)：「言葉にする力　実践知を言語化する」と題して、介護現場でのケアワークやソーシャルワークにおける課題を、研究・教育にどう結びつけていくのか、これまでの研究と実践の成果について紹介していただいた。

＊「地域とつながる」：「双方向型の高大連携による地域資源を活かした授業モデルの構築」の取り組み　本学と身延高校との連携事業について、高校生による地域おこしの政策提言に至ったその取り組みの成果を、国際政策学部の吉田均教授、身延町役場観光課の笠井宗二郎さん、同高校から本学に入学した佐野ひかるさん(国際政策学部学生)に紹介していただいた。

＊「私たちの一歩!」：ヘルスプロモーションクラブ(Health Promotion Club)　同クラブが取り組んでいる、中学生・高校生と正しい「性」の知識を共有・学習し、一緒に考える活動について、石原匠さん、飯塚綾美さん、田中かなえさん(看護学部学生)に紹介していただいた。

＊「講座・イベントのお知らせ」：10 月以降に開催予定の講座・イベント等の告知を行った。

３．ウェブサイトでの情報発信

本学のウェブサイト内に、地域研究交流センターのサイトを置き、センターの概要、生涯学習の案内、地域連携・支援の取り組み、地域研究、刊行物(年報・報告書・ニューズレター等)、活動記録等、各種の情報発信を行っている。特に、生涯学習部門が実施する講座・研修等のイベントに関する情報は、随時タイムリーな情報発信となっている。また、センターが中心となって行った取り組み(講座・イベント・学生優秀地域プロジェクト等)を、そのつど「活動記録」として情報発信している。

（文責：藤谷秀）

生 涯 学 習 部 門

１．部門事業の概要

（１）地域研究交流センター主催事業

地域の方々を対象に大学の教育・研究成果発表、及び県民の知的関心に応えるための講演会を企画・開催した。

①　観光講座　　②　秋季総合講座

（２）県民コミュニティーカレッジ事業

「大学コンソーシアムやまなし」との提携で、地域ベース講座として大学の研究成果を分かりやすく伝える講演会の企画運営をし、広域ベース講座として、フィールドワークを含む講座を実施した。

①　地域ベース講座　②　広域ベース講座

（３）地域連携講座事業

地方自治体の委託を受けて、本学教員が各種講座を企画・実施した。

①　日本語・日本文化講座　　②　幼児教育センター月例別講座

③　子育て支援リーダー実力アップ講座

④　ワクワク子育て親育ちプログラム学習講座

⑤　穴山町サンマ祭 2016　　⑥　「やまなしの女性史を学ぶ」講座

（４）学部共催講座事業

各学部学科の特性をいかした講演会・講座・イベント等を担当教員が企画・開催した。

①　ソーシャルワークセミナー（人間福祉学部福祉コミュニティ学科）

②　講演会（国際政策学部）　　③　健康講座（看護学部）

④　保育リカレント講座（人間福祉学部人間形成学科）

（５）授業開放講座事業

大学の正規の授業を受講でき、地域や社会に開かれた大学としての取り組みである。前期に１９科目を開講、後期に２６科目を開講した

２．部門事業の実績と課題について

本年度は５区分１５種類の事業が企画実施された。複数回シリーズで実施される企画が多く、固定参加者も年々増加傾向にある。参加アンケートによると概ね良い評価を得ることができた。これも、生涯学習部門委員をはじめ、各学部の担当教員の尽力と事務局の広報の工夫などの賜物である。事業の回数や種類が多く、一部の教員に負担が偏る傾向や、開催日が連続する点については、今後の改善課題として取り組みたい。

（文責：村木洋子）

【生涯学習部門の個別事業】

１．地域研究交流センター主催事業

（１）観光講座

① テーマ：「山梨の自然と文化の再発見」

② 趣旨：富士山・南アルプス・八ヶ岳及び周辺域に豊かな自然や文化的景観を有する山梨県は、近年国内外からの訪問者が多くなってきています。しかし、これら地域を単に現代のしかも表層的な理解に限ることなく、この山梨の各地で展開されてきた人間生活の営みを、歴史的な流れを軸にして紐解くことで、多様な価値観が再認識されることと考え、このたびの講演会を企画しました。

③ 対象：一般県民

④ 講師：杉本悠樹（富士河口湖町 教育委員会）・跡部治賢（北杜市オオムラサキセンター館長）・斎藤秀樹（南アルプス市 教育委員会）・長澤宏昌（山梨県考古学協会）・村山 力（やまなし野鳥の会）・田中秀基（国土交通省 富士川砂防事務所長）・輿水達司（山梨県立大学特任教授）・増澤武弘（静岡大学 客員教授）・新津 健（山梨県考古学協会）・山下孝司（山梨郷土研究会）

⑤ 日時と参加者数：

第一回　平成 28 年 7 月 24 日(午後 1 時～午後 4 時半) ［参加者 70 名(当日受付 19 名)］

第二回　平成 28 年 8 月 28 日(午後 1 時～午後 4 時半) ［参加者 65 名(当日受付 20 名)］

第三回　平成 28 年 9 月 4 日(午後 1 時～午後 4 時半)　［参加者 78 名(当日受付 23 名)］

第四回　平成 28 年 9 月 11 日(午後 1 時～午後 4 時半) ［参加者 70 名(当日受付 12 名)］

第五回　平成 28 年 10 月 2 日(午後 1 時～午後 4 時半) ［参加者 51 名(当日受付 4 名)］

⑥ 場所：山梨県立大学飯田キャンパス講堂

⑦ 実施状況：5 回の講演会には、延べ 334 名の参加を数え、平均で 67 名になりました。これらの参加状況をみると、多くは一般県民で、しかも、特に動員を促すことなく多くの参加者のあった背景には、今までに実施した「富士山の世界遺産講座」、「南アルプス講座」などと同様に、本年度の場合にも、科学的に価値の高い自然・文化が我々の身近にあることが、強い関心を抱かせたのかも知れません。

⑧ 参加者の感想：＊県立大の観光講座は、資料および講師のレベルが高く、非常に魅力のある内容で毎年参加させていただき感謝しています。今後も続けてください。＊座学の講演のみならず、年間を通じて見学できるコースをつくり、ウォークしながら自然や歴史・文化を訪ねる企画をしたらどうかと思います。＊これからの生活に役立つ資料、お話、ありがとうございました。＊富士五湖の湖底堆積物から地球のこと、太陽（系）との関係など、スケールのおおきな話をワクワクしながら聴きました。冬期開催もあれば嬉しい。など。

最後に、今回の講演内容も報告書として本年度中に完成予定で作業を進め、同時に地域

研究交流センターホームページには、このＰＤＦ版をアップする計画です。今回の観光講座につき、多くの県民がこの企画に関心を持たれ足を運んで頂いた経緯から、この企画が県内観光推進に貢献になれば、と願って実施状況の報告とします。

（文責：輿水達司）

（２）観光講座の学外企画（平成 28 年度新企画）

① テーマ：「富士山の文化と自然を探る」

② 趣旨：山梨県立大学で行ってきた講演会等の内容を、会場を大学から外に移して、広く一般県民に向け情報の発信を図る目的で企画した。具体的には、富士山の世界遺産関連の連続講演を県庁防災新館において、山梨県生涯学習推進センターとの共催で実施した。

③ 対象：一般県民

④ 講師：・新津　健（山梨県考古学協会委員長）・輿水達司（山梨県立大学特任教授）・近藤暁子（山梨県立博物館学芸員）・杉本悠樹（富士河口湖町教育委員会学芸員）

⑤ 講演題目・日時と参加者数：

第一回：「考古学から探る富士山信仰と環境」

平成 29 年 1 月 19 日(午後 6 時半～午後 8 時)　［参加者 38 名］

第二回：「富士山・富士五湖・富士山地下水の過去・現在・未来」

平成 29 年 1 月 26 日(午後 6 時半～午後 8 時)　［参加者 33 名］

第三回：「彫刻に表現された富士山信仰」

平成 29 年 2 月　2 日(午後 6 時半～午後 8 時)　［参加者 23 名］

第四回：「富士北麓の世界遺産の構成資産を訪ねる」

平成 29 年 2 月　9 日(午後 6 時半～午後 8 時)　［参加者 26 名］

⑥ 場所：山梨県庁 防災新館

⑦ 企画内容：古来、日本を象徴する山であった富士山は、2013 年に世界文化遺産に登録されこれ以降、富士山には国内外からの訪問者が多くなっています。この機会に、改めて富士山につき、その成り立ちから変遷、信仰・芸術の対象として故事来歴などにつき、専門家による分かり易く紹介する講演会を企画しました。

⑧ 実施状況：この企画は、県立大学が今まで大学内で進めてきた講演会等の内容を、大学の外に会場を移して一般県民にお披露目しようとの趣旨で実施したものです。ただ、実施の時期が一年で最も寒い時期に、しかも夜間の時間帯となり、県民が容易に参加できるか幾分心配もしました。が、講演会への参加者は甲府市内からの方々が半数を占めたものの、講演テーマに関係することかもしれませんが、県内各地からの参加がありました。アンケート結果からも、概して好評を得ることができました。

⑨ 参加者の感想：　＊今回のような講座は、年間で連続していく必要がある。じっくりと期間をかけて学んでいきたい。＊説明が解りやすく楽しかった。もう少し時間があれば、

もっと聞きたかった。＊無料でこれだけ内容の濃い講座は宝なので、今後も続けて下さい。＊講師の実地検査のデーターに基づく内容で、真実味があり興味深く聴きました。＊もっとじっくり伺いたい内容でした。４回に限定せず、さらに何回かに分けても良いのでは。＊文章だけでなく、映像を映しながらの解説なので、理解できました。など。

（文責：輿水達司）

（３）秋季総合講座

① テーマ：「よりよく学び生きるために」

② 日　時：平成 28 年 9 月 3 日（土）13 時 30 分～16 時

③ 場　所：山梨県立大学 飯田キャンパス 講堂

④ 参加者：合計 30 名

⑤ 趣　旨：人はいくつになっても、学び続けることで成長し、学び始めるのに遅すぎることはありません。この機会に山梨県立大学を訪れてみませんか？

⑥ 内　容：

（ア）「右と左」

講師：山本　隆司（山梨県立大学　理事）

右と左！世の中や自然界には右と左の区分があって、社会ではそのルールにしたがうことが時に強く求められます。

人工物の部品・要素・動きや、生物および動物のかたちにもその区分けが見られます。

実社会や自然界で右と左の違いが見られるのはなぜか？皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

（イ）「メディアは人生を豊かにするものなのか？」

講師：兼清　慎一（山梨県立大学　国際政策学部国際コミュニケーション学科　准教授）

私たちはなぜ、これほどまでにメディアに取り囲まれているのでしょうか。

メディアは私たちの社会を、私たちの人生を豊かにしているのでしょうか。

そもそもメディアは社会の中でどのように存在してきたものなのでしょうか。

メディアをめぐるさまざまな研究を紐解きながら、メディアと私たちの関係性をみなさんと一緒に考えたいと思います。

（ウ）「自分の体からの『メッセージ』をキャッチしよう！！～まずは脈拍測定から～」

講師：白田　梨奈（山梨県立大学　看護学部看護学科　助教）

自分の体からは、一瞬一瞬、たくさんの『メッセージ』が発せられています。それらをキャッチすることによって、自分の体を守ることができます。

そのキャッチ力を身につけるために、必要な科学的視点をお伝えしながら、みなさんと一緒に、自分の体からの『メッセージ』について考えてみたいと思います。

（文責：村木洋子）

２．県民コミュニティーカレッジ事業

（１）地域ベース講座（全４回）

①　テーマ：「続・よりよく生きるために 死ぬために」

自分の生活、自分の生き方を振り返ってみて、

これからの人生の価値を見つめ直してみませんか。

②　講座概要：

第 1 回 平成 28 年 9 月 24 日（土）

「よく生きること」と「死を思うこと」

～「生」と「死」を哲学する～

講師：山梨県立大学人間福祉学部

藤谷　秀 教授

第 2 回 平成 28 年 10 月 15 日（土）

生きること、死ぬこと、そして文学にできること

講師：山梨県立大学国際政策学部

大村　梓 講師

第 3 回 平成 28 年 10 月 22 日（土）

音楽で より おトクに暮らそう

～晩年の作品から学ぶこと～

講師：山梨県立大学人間福祉学部

村木 洋子 准教授

第 4 回 平成 28 年 10 月 29 日（土）
死にゆく過程を癒す
講師：山梨県立大学看護学部
前澤 美代子 講師

時　間　14 時～15 時 30 分 （開場 13 時 30 分）
場　所　山梨県立大学 飯田キャンパス 講堂
参加者　合計 251 名（第 1 回：89 名　第 2 回：45 名　第 3 回：45 名　第 4 回：72 名）

（文責：村木洋子）

（２）広域ベース講座

「八ヶ岳百万年の大地形成史を辿る旅　　～ナウマン博士の歩いた場所と観た景色～」

① テーマ：「八ヶ岳百万年の大地形成史を辿る旅」実施日と参加者：

■講　　義：「富士山・富士五湖・富士山地下水の見どころ」
日　　時：平成 28 年 10 月 8 日（土）　13 時～15 時 40 分
会　　場：山梨県立大学 飯田キャンパス B 館講堂

■観察会：バスツアー（清里高原の獅子岩駐車場、三分一湧水、七里岩（＝韮崎岩屑なだれ）、登録記念物の屏風岩、韮崎市桐沢の逆断層、銀河鉄道展望公園など）
日　　時：平成 28 年 10 月 15 日（土）
集合出発：甲府駅発便（大型バス 2 台）　8 時 30 分出発→ 17 時 30 分帰着
参加者は、10 月 8 日が 104 名（座学のみの参加者を含む）、10 月 15 日が 76 名

② 趣旨：「大学コンソーシアムやまなし」では、その発足以来、地域ベース、広域ベースとして一般向けに、大学の研究成果の周知活動を広く行ってきましたが、その殆どが座学による講座でした。こうした背景のなかで、座学のみならず野外における学習機会も併せた企画が期待され、一昨年度は山梨県立大学が主体となって、「南アルプスの大地形成一千万年を辿る旅」と題する、初の野外の観察を企画し、これに続き、昨年度は「富士山ぐるり一周の旅」を同様に企画し、県立大学が主体で案内を実施しました。そして、今年度は「八ヶ岳百万年の大地形成史を辿る旅」を企画・実施しました。

今年度はサブタイトルとして～ナウマン博士の歩いた場所と観た景色～を掲げ、八ヶ岳山麓を中心にナウマン博士が、当時歩いたであろう場所と景色に触れながら、当時の 1800 年代の後半期から 130 年ほどの現在までの間に進歩してきた地球科学の新知見も織り交ぜつつ、郷土の大地形成史を参加者と共に探りました。

③　対象：一般県民

④　実施内容（概要）：10 月 8 日に、野外観察に先立って半日の座学によるスライド説明会を、実施しました（講師は輿水）。その上で、10 月 15 日に甲府発着で２台のバスに参加者 76 名と案内人 2 名（輿水と小村）と補助員 2 名の合計 80 人で行動をとりました。

⑤　アンケート資料から：参加者は、甲府市を中心に県内各地から、20 代から 80 代の広範な年齢層でした。参加目的の多くは知的好奇心からによるもので、地元の大地形成など自然の仕組みの理解を学びたい、という感想が主体でした。それと同時に、第二の人生として北杜市などに移り住んだ方の参加も多く、八ヶ岳を始めとして南アルプスなど、自分が好んで住み着いてきた、山梨の自然やその変遷史に強い関心を持たれている事情からの参加者も少なくないようでした。

総じて、参加者の意見として、自然の豊かな山梨では、このような野外観察会の企画は、これまで以上に活発にすることの重要性の指摘が多く出されていました。

（文責：輿水達司）

３．地域連携講座

（１）日本語・日本文化講座

①目的：外国人のためのレベル別日本語教室

②日時：平成 28 年 6 月～平成 28 年 12 月までの毎週日曜日（13 時～15 時）

③場所：山梨県立大学飯田キャンパス　Ａ６０６、研修室　他

④内容：会話 1、会話 2、会話 3、文字クラス、文化講座「川柳」「茶道」

⑤主催：山梨県立大学、甲府市

⑥実施状況

参加者（延べ）：221 名

会話 1…27 名　　会話 2…39 名　　会話 3…107 名　文字クラス…25 名

日本文化講座「川柳」…12 名「茶道」…11 名

参加者国籍：12 か国　＜台湾 45、ブラジル 29、中国 27、ベトナム 27、インドネシア 25、米国 18、フィリピン 13、ペルー10、ボリビア 10、インド 8、ベネズエラ 6、韓国 3＞

（文責：萩原孝恵）

（２）幼児教育センター月齢別講座

甲府市からの依頼を受けて 10 年目となり、平成 28 年度は計 33 回の講座を実施した。看護学部は「３ヵ月～８ヵ月未満児クラス」９回と「８ヵ月～１歳３ヵ月未満児クラス」６回、人間福祉学部は「１歳３ヵ月～２歳未満児クラス」９回と「２歳児クラス」９回を受け持った。

看護学部は「育児の気がかり」をテーマとして、対象年齢の保護者向けに、小児看護学領域の教員３名で担当した。人間福祉学部の講座は、教員が講師を務める講座と、人間形成学科の学生も参加する交流企画の２つのタイプで実施した。

実施日程、担当者、内容は以下のとおりである。

①　３ヵ月～８ヵ月未満児（木曜日　１０：３０～１１：３０）

中央部幼児教育センター　6 月 23 日（担当講師：井上みゆき教授）
10 月 20 日（担当講師：井上みゆき教授）
1 月 19 日（担当講師：井上みゆき教授）

北部幼児教育センター　6 月 30 日（担当講師：宗村弥生准教授）
11 月 10 日（担当講師：宗村弥生准教授）
1 月 26 日（担当講師：宗村弥生准教授）

中道つどいの広場　6 月 23 日（担当講師：横森愛子講師）
10 月 27 日（担当講師：横森愛子講師）
1 月 19 日（担当講師：横森愛子講師）

②　８ヶ月～1 歳３ヵ月未満児（火曜日　１０：３０～１１：３０）

中央部幼児教育センター　6 月 28 日（担当講師：宗村弥生准教授）
10 月 18 日（担当講師：井上みゆき教授）
1 月 24 日（担当講師：横森愛子講師）

北部幼児教育センター　7 月 5 日（担当講師：井上みゆき教授）
10 月 18 日（担当講師：横森愛子講師）
1 月 24 日（担当講師：宗村弥生准教授）

③　１歳３ヵ月～２歳未満児（金曜日　１０：３０～１１：３０）

中央部幼児教育センター
6 月 24 日《生活リズムとトイレ・トレーニング》　髙野牧子教授
10 月 21 日《音楽とコミュニケーション》　村木洋子准教授
1 月 20 日《親子で手遊び》　樋口しずか非常勤講師

北部幼児教育センター
6 月 24 日《ようこそ宇宙船地球号へ：国際人への第一歩》　山田千明教授
10 月 28 日《音楽とコミュニケーション》　村木洋子准教授
1 月 20 日《生活リズムとトイレ・トレーニング》　髙野牧子教授

中道つどいの広場
7 月 1 日《生活リズムとトイレ・トレーニング》　髙野牧子教授
10 月 28 日《不思議の国の子どもたち》　多田幸子講師
1 月 27 日《自己尊重のコミュニケーション―子どもも自分も大切に―》
池田政子名誉教授

④　２歳児（水曜日　１０：３０～１１：３０）

中央部幼児教育センター

6 月 22 日《親子で手遊び》　樋口しずか非常勤講師

6 月 29 日《脳と心を元気に育てる方法》　坂本玲子教授

10 月 19 日《親子で楽しく身体表現あそび》　髙野牧子教授

11 月 2 日《一緒に遊ぼう（ダンボールで作ったいろいろ道具)》

学生・引率（池田充裕教授・田中謙講師）

1 月 18 日《劇遊び発表会》　学生・引率（高野牧子教授・村木洋子准教授）

1 月 25 日《手を使った造形遊び》　古屋祥子准教授

北部幼児教育センター

7 月 6 日《子どもの「発達」をみてみよう》　田中謙講師

11 月 2 日《一緒に遊ぼう（ダンボールで作ったいろいろ道具)》

学生・引率（古屋祥子准教授）

1 月 18 日《劇遊び発表会》　学生・引率（古屋祥子准教授）

（文責：村木洋子）

（３）平成 28 年度「子育て支援リーダー実力アップ講座」（9 回連続講座）

①趣旨：貧困など困難を抱える家庭や子育て中の親の不安を解消し、地域での子育てや家庭教育の支援活動を積極的に推進できる人材を確保するため、家庭教育・子育てにおける喫緊の課題について講義と実技演習を主体とした講座を開催し、子育て支援リーダーの養成及び資質向上を図る。

②主催：山梨県教育委員会社会教育課

実施機関：山梨県立大学（人間福祉学部人間形成学科）

共催：山梨県立大学地域研究交流センター（センター生涯学習部門・地域連携講座）

連携：教育事務所（中北、峡東、富士・東部、峡南）

③会場：本学サテライト教室、講堂ほか

④運営：高野牧子教授・池田政子特任教授の企画、コーディネートにより実施。社会教育課及び教育事務所担当者は外部講師との連絡、広報、会場準備、毎回の受講者評価集計などの事務およびグループ研究へのサポートを行った。

⑤プログラム・日程（別表参照）：毎回、講義、ワークショップ、グループ討論など多様な方法により学習を進めた。課題を発見し研究する力を養成するためにアクティブ・ラーニングの手法を取り入れ、5グループが自主的にテーマを設定して学習・研究　を行い、その成果を発表した。「子育ての現状から　～今の保護者が求める支援とは～」「自分の経験＆実績を甘く見るな!!　～保護者のタイプ別支援～」「子の育てにくさを感じている保護者への支援」「親子のためのITルール5ヶ条～賢く安全にIT機器を利用するために～」「子育てに困っている親に、どう関わったらいいか『信頼関係を築くためには』～どんなスキル・要素が必要か～」のテーマで、資料収集、調査・分析・考察、それに基づく実践、成果物の作成とその活用などを行い、最終回に概要の発表を行った。この内容を含め、各回の実施状況、評価等について、県社会教育課の下記ページに公開。

https://www.pref.yamanashi.jp/shakaikyo/kosodatejitsuryokuup/bosyu.html

別表　　SR：サテライト教室　　WS：ワークショップ　GW：グループ自主研究

回	日時・会場	内　　容	講師（所属）
1	6 月 17 日 （金） ＳＲ	開講式・オリエンテーション テーマ「自分の課題を見つめる」 ①講義「子どもの貧困対策・県の取組について」 ②講義「子育て支援の現在と私たちの課題」、ＧＷ①	①永井研一（県教育委員会社会教育課） ②池田政子（県立大）
2	7 月 1 日 （金） 講堂	テーマ「家庭教育支援の技術をみがく」 講義・ＷＳ「親子で楽しく身体表現遊び」 ＧＷ②	高野牧子（県立大）

3	7 月 15 日 （金） ＳＲ	テーマ「児童虐待と DV について学ぶ」 講義「やわらかな支援のありかた （児童虐待を取り巻く環境にふれながら）」 講義「ＤＶも子ども虐待も見逃さない 初動対応と連携支援」 ＧＷ③	小林豊子（中央児童相談所児童虐待対策幹） 佐々木郁子（DV 被害者アドバイザー・女性支援コーディネーター）
4	7 月 25 日 （月） ＳＲ	テーマ「“育つ―育てる”関係の基本を学ぶ」 講義「子どもの育つ“根っこ”を考える ―今おとなに求められていること」 ＧＷ④	遠藤利彦（東京大学大学院教授）
5	8 月 7 日 （日） Ｂ120 講堂	テーマ「家族の今」 講義・WS「リユース・アート入門　～素材で遊ぶ～」 受講者交流会 子育て支援者フォーラム ①シンポジウム「家族の今と私たちの実践」 齊藤加代子（フードバンク山梨事務局長） 宮本知子（げんき夢保育園園長） 榊原まゆみ（産前産後ケアセンター・センター長） ②子育て支援者交流会「私の子育て支援紹介」	古屋祥子（県立大） 進行：池田政子（県立大）
6	8 月 26 日 （金） A601	テーマ「相談員としての技能を高めよう！」 講義・WS「安心感・安全感を与えるアプローチ ～エンパワメントにつなげる支援とは？～」 ＧＷ⑤	高山直子（サポートハウスじょむ・カウンセラー）
7	9 月 16 日 （金） ＳＲ	テーマ「発達障害支援について学ぶ」 講義・WS「自閉症スペクトラム／ADHD 児の支援のポイント」 ＧＷ⑥	田中謙（県立大）
8	9 月 26 日 （月）ＳＲ	グループ自主研究⑦	高野牧子（県立大） 池田政子（県立大）
9	10 月 7 日 （金）講堂	「グループ自主研究発表会」 閉講式	高野牧子（県立大） 池田政子（県立大）

＊毎回、進行とアドバイス等を高野牧子・池田政子及び各教育事務所担当者、社会教育課担当者で行った。

⑥受講者及び修了者:受講者は32名(幼稚園・保育園・認定こども園、放課後子供教室・児童館・ファミリーサポートセンター・子育て支援センター・つどいの広場の子育て支援担当者、子育て中の保護者など)。このうち、出席回数などの基準により29名に修了証を授与した。

⑦参加者からの感想など

●講座全体の評価（%）

	良かった	まあ良かった	あまり良くなかった	良くなかった	無記入
講座内容	92.9	7.1	0.0	0.0	0
現場での役立ち度	82.1	14.3	0.0	0.0	3.6
班別自主研究	75.0	14.3	3.6	0.0	7.1
講座運営	75.0	17.9	0.0	0.0	7.1

●受講生の感想（抜粋）

1）講座の内容：支援者として必要な様々なスキルも新たに知る事が出来、目からウロコの話も聞け、実り多い時間を過ごせた／色々なスキルを持った方と話す機会となり、その中から自分のしてきた支援について、参考にさせて頂くこともでき、自分のスキルアップにつながった。

2）役立ったこと：「親子で楽しく身体表現」を園に持ち帰り実践してみた／自分が興味ある事を共通の話題とし、研究し合う事は新しい発見につながった／職種が違う人達が集まって、子育て支援という目標に向かい勉強する場をこれからも提供して欲しい／気になる子への支援や保護者に対する働きかけなど、実践で使えるものも多く役立った／悩みを抱えたお母さん、意見を求めてきたお母さん方へ、私が支援者としてどう関わるか、どういった言葉をかけたらいいのか、という場面で活かされた／「リユース・アート」を放課後子供教室でさっそくした。

3）班別自主研究について：講座で学んだことをベースに、さらに深く掘り下げたいことを共有し研究したことで１つの成果物となり、とてもよかった／様々な立場の方々と出逢え、新たな発見や知識を得る事が出来、自主研究を進める中で文献を読んだり、サイトで調べたりする過程で、自分自身の勉強にもなった／▲色々な話し合いができたのはよかったが、仕事を持ちながら、それをまとめるとなると大変／▲色々な立場の班員で、協力して研究していくことは面白かった。教育事務所の先生が入ってくださり、毎回、的確なアドバイスをいただけて、とても勉強になったが、班の中でなかなかスムーズに連携できなかった部分もあり、肝心の内容の研究、考察に割く時間が少なくなってしまったのが大変残念（⇒「あまり良くなかった」と評価）

4）運営について：講座の後に補足や質疑応答の時間があって、他の方が質問した事の返答なども沢山知る事ができた／座学だけでないアクティブ・ラーニングを取り入れたバランスのよい構成／これから子を産むかもしれない、子を育てるかもしれない立場としては、

子育て（や子育て支援）に関するニュース等で悲観していた部分もありましたが、今回参加して、いろいろな先生方が親身になって相談にのってくださったり、御指導くださり、とても感動しました。「こんなに考えてくれる方々がいるのだから大丈夫！」と安心した。／＜改善＞　私は子育て支援課に所属なのでこの講座を知らず、期限を過ぎてから申込みをさせて頂きました。県でも子育て支援課と教育委員会で共有していただいて、講座の受講生を増やして頂きたい。（すばらしい講座なので知らないのは、もったいないです）

⑧社会教育課の総括（社会教育課主幹　進藤美佳）

・ 講座の内容、役立ち度、班別自主研究、講座の運営全てほぼ８割が「よかった」が占め、残りの「まあまあよかった」の理由や意見からも、受講生は講座全体に対して肯定的に感じている。

・理由や意見の記述内容から、子育て支援者に必要な資質向上のための講義、現代社会における喫緊の課題（貧困、ＤＶ、子ども虐待、発達障がい児支援等）に対して県の情勢、法の制定、それに対する対応や支援のあり方と、現在、支援に関わっている者だけでなく、子育てに携わる者へも有益な講座内容であったことが伺える。 また、講義を受けたことで、子どもへの接し方、そして、その保護者への関わり方など実践的な部分で役立ったこともあったが、支援者としての姿勢として影響を受けたことが記述されていて、支援リーダーとして意識を高めることができた講座だと言うことができる。

・班別自主研究も、“研究”という言葉からゴール地点が見えない中での取り組みに不安を感じていた受講生もあったが、毎回のグループでの話し合いにより課題への共有や調査等の作業を通して見えてきた時に手応えを感じ、そして、その集大成として発表会をしたことで一体感、満足感を得たという記述が多かった。班員の構成によっては、なかなかまとまりづらい部分もあり苦労されていたが、今後の班員の構成や研究計画を明確化することを、今後もグループでの自主研究を取り入れる場合、考慮すべき内容としていきたい。 当初は、班別自主研究に対して積極的でなかったことが振り返りのアンケートから伺えたが、発表会を通して、この講座を通して地域の子育て支援のネットワークづくりとなったことが伺える。今後もこの縁を大切につながっていてほしい。

・本講座は一方的な講義でなく、県内子育て支援教育の一人者である池田先生、髙野先生が受講生の立場や現場の現状にそった講義になるように講師との打ち合わせをしていただき、講義の後に解説してくださったり、講師への質疑応答や個別指導などの時間を取ってくださったりしている為、支援者の資質向上と地域支援者のネットワークづくりと両面を取り入れた構成になっている。それが全９回という継続講座でありながら多忙な中での研修でも満足感につながっていると思われる。来年度は、講座開催期間や開催日時、また、本講座の広報活動について一考し、子育て支援者や支援に携わっている者だけでなく、子育て行政職員にも受講していただけ、県内全ての市町村からも推薦していただき参加していただけるよう働きかけたい。

課題・目的
子育てについての現状や保護者の考えを知り
ニーズが何かを考える
課別自主研究発表会

子育て支援リーダー育成アップ講座
開講式

（文責：池田政子）

（４）平成 28 年度「ワクワク子育て親育ちプログラム」学習講座（６回連続講座）

①趣旨：子育ての悩みや不安を解消し、親が自信をもってわが子に向き合い、子育ての楽しさを実感できることを目的に、平成 27 年度山梨県教育委員会が作成した『やまなしワクワク子育て親育ちプログラム』の普及と活用のため、現在子育て中の親及びその支援者、さらに若者を対象に、最新の研究成果を取り入れた全６回の講座を開設し、親が子育ての楽しさを実感するとともに、楽しさを広める活動を推進する人材（ファシリテーター）を養成する。

②主催：山梨県教育委員会社会教育課

実施機関：山梨県教育委員会・山梨県立大学（人間福祉学部）

共催：山梨県立大学地域研究交流センター（センター生涯学習部門・地域連携講座）

連携：教育事務所（中北、峡東、富士・東部、峡南）

③会場：本学飯田キャンパス　サテライト教室

④企画・運営：県社会教育課及び高野牧子人間福祉学部教授、池田政子特任教授

⑤内容・日程：毎回、高野及び池田がファシリテーターを行ったが、昨年度の修了生で本プログラムの推進委員各１名もファシリテーターとして参加した。またプログラム演習のメニューを全回に組み込み、受講者全員がファシリテーターを経験するよう配慮した。

第１回　10 月 14 日（金）13：30～16：30　開講式、プログラムの概要、ファシリテーターとは、プログラム実践「子どもの自主性と自立　～こころ・コミュニケーション・家族」（講師：池田政子）

第２回　10 月 28 日（金）13：30～16：30　学ぶ場づくりとアイスブレイキング、H２７年度修了生の話、プログラム実践「子どもの自主性と自立　～からだ・生活」（講師：高野牧子）

第３回　11 月 13 日（日）13：30～16：30　プログラム実践「コミュニケーションの基本　～聞き上手・伝え上手になるために」（講師：池田政子）　＊公開講座として実施

第４回　11 月 25 日（金）13：30～16：30　プログラム実践「将来親となる若者を対象としたプログラム」（講師：高野牧子）

第５回　12 月 2 日（金）13：30～16：30　プログラム実践「勇気付の子育て」「課題の分離」（講師：坂本玲子人間福祉学部教授）

第６回　12 月 16 日（金）13：30～17：00　プログラム実践「親としての私自身を考えるプログラム」（講師：池田政子）、閉講式

各回の実施状況、評価等について、県社会教育課の下記ページに公開。

https://www.pref.yamanashi.jp/shakaikyo/wakuwakukosodateoyasodati.html

⑥受講者及び修了者：３２名の受講者のうち、出席回数等の基準により、３０名が修了証を授与された。また、昨年度の修了生を含めた本プログラムの活用のためのネットワーク構築のため、地区ごとの推進委員を選出した。

⑦参加者からの感想など　（修了生３０名のアンケートから）

１）講座全体の評価（%、③のみ２８名回答）

	よかった	まあまあよかった	あまりよくない	よくない
①講座の内容	８３．３	１３．３	３．３	―
②役立ち度	６６．７	３３．３	―	―
③講座の運営	７５．０	２１．４	３．６	―

２）講座内容について　　＊以下、自由記述より抜粋

６回の講座を通して、母としての自分、妻としての自分、一人の人間としての自分はどうだろうと自分自身を振り返れた／すべての講座内容に興味が持て、ここで知り得た方々と意見交換が行え、自分だけの子育て方法ではなく、多種多様の考えを学べた／演習形態を多く取り入れていて、実際にファシリテーター役になったり、アイスブレイキングを実践してみたりということが良い経験になった／子育てをする中で、同じような悩みや壁を感じていることを講座の中で知ることができた。今回、参加していない妻にも伝えて頑張っていこうと、気持ちを合わせるのに役立った／毎回、はっと思うことが多く、本当にためになる講座で、もっとたくさんの方々がこのような講座を聞けたら、楽しい子育ての輪が広がっていくと思う／具体的なエピソード、的確なワンポイントアドバイスがあり、それがまとまったテキストになっていて、とてもよくできたプログラムだと思った／▲色々な話を聞けるのは楽しかったが、ファシリテーターを育てるプログラムだと思わず参加してしまったので、他の受講生の意見を聞いていくうちに、自分が子育てに向いていないのではないかと思った。

３）講座の役立ち度について

子どもと向き合う時、冷静になれた。広い見方で、その子の背景まで推し測って会話を進められるようになった。感情のコントロールをして、いつも朗らかでいることが、子にとっても負担でないようだ／わたしメッセージを家族みんなで話し合い、取り入れた。今まで以上に、それぞれの思いを言葉で表現できるようになり、思いやりを持って接することができている気がする／講座を終えて帰宅すると、すぐに子どもに「今日はね～」と話をした。まだまだ先は長いが、めげずに講座で学んだことを、色々とチャレンジしていきたい／体験談を参考に、また全ての資料をゆっくりと読み返し、日々の子育てに役立てたい／子育てをする上で、“自分を好きでいること”は重要なことだと思った。子どもの頃に怒られてばかりで、いざ、自分の子に子育てする時、正直、“怒る”＝子育て　と思っていた。怒らなくても、伝えたいことは、コミュニケーションによって伝えることができる！この経験を得てから、子育てがとても楽しくなった

４）講座の運営について　他

多くの人達と関わり、意見交換などのワークショップの形式はとても良かった／資料の配付や前回分の集計など、とてもきめ細やかに準備し、授業に集中できる様、段取りして下さっ

ていて、とてもありがたいと思った／すばらしいチームワークとセッティングで感動／▲３時間という講座だったが、いつも時間が足りない感があった。講座の回数や時間を増やすなどしてほしい／▲託児があれば、より参加しやすかった／▲夜の講座もあるとありがたい。

⑧社会教育課の総括（社会教育課主幹　進藤美佳）

・講義だけでなく、参加者同士が話し合うことやワークを通じて、ファシリテーターを経験することにより、より多くの学びを感じとることができる講座となっている。

・プログラムにあるエピソードを客観的にとらえてみることによって、先生のお話、参加者同士の意見交換の中から、冷静に自分の子育てを振り返ったり、新しい気づきもあったようで、本プログラムを活用する意義を実感している感想や意見が多かった。

・熱心な学ぶ姿勢やワークでの積極的な話し合いの様子から、受講生も次第に聞き慣れないファシリテーターについて、その役割を経験しながら学ぶことができたと思う。

・決められた講座回数や限られた時間の中で、できるだけ多くのプログラムに触れて、ファシリテーターも受講生全員が経験するようにしたいという教材作成者であり講師の池田先生や髙野先生のねらいもあったので、どうしても余裕がない運営になってしまっていたことは反省すべき点として、今後の講座開催の際には参考にしていきたい。

（文責：池田政子）

（５）東日本大震災被災地応援企画穴山町サンマ祭 2016

①日時：2016年10月15日（土）10:00～14:00

②場所：穴山町ふれあいホールおよび旧穴山小学校体育館

③参加人数：5名（国際政策学部1年生）

④来場者数：約400名

⑤内容：毎年、韮崎市穴山地区で住民の皆さんが中心となって行っている企画に、本年も国際政策学部の学生がボランティアで参加し、まつりを盛り上げた。

本企画は、東日本大震災被災地応援企画と銘打って、宮城県気仙沼市鹿折（ししおり）地区と韮崎市穴山地区との交流を通じて震災以来行われており、本学国際政策学部の学生と教員が当初から参加しているイベントである。今年も、第一部として、被災地復興支援報告会で気仙沼市で復興支援をしている日本国際ボランティアセンターのスタッフからの報告があり、いまだ多くの困難に直面している現地の状況について学んだ。続いて行われた第二部の気仙沼産のサンマを食べるイベントでは、被災地の状況に関心を持ち続けることの大切さについて語り合いながら、焼き立てのサンマの味に舌鼓を打った。会場では、イベントで振るまわれたサンマが販売もされるとともに気仙沼産の水産加工品や穴山地区の地元商店で販売されているワインやお菓子の販売ブースも出て、両地区の交流を盛り上げた。

今年は本学から国際政策学部の１年生５名が参加し、地域実践入門の授業の一環として、山梨から震災の被災地の復興を支援するというユニークな取り組みを通じて、今日なお被災地が直面している課題を地域での実践の中で学んだ。授業をご指導くださった国際政策学部の兼清慎一准教授、ケヴィン・ブラウン准教授、および穴山町サンマ祭り2016実行委員会事務局長の清水俊弘さんはじめ穴山地区の皆さんに、この場を借りて改めて感謝申し上げます。

（文責：二宮浩輔）

（６）「やまなしの女性史を学ぶ」講座「新しい女」　平塚らいてう＊笠井彦乃

①趣旨：本講座は、山梨の女性の歴史を掘り起こし、地域女性史の視点から学び、また県民の関心を高めるための公開研究会として毎年実施。11 年目の本年度は、生誕 130 年を迎え、自らを「新しい女」と宣言し日本近代の女性解放運動の原点となった「平塚らいてう」について学び、さらに同時代、竹久夢二の「永遠の恋人」と言われた山梨県出身の笠井彦乃を「新しい女」の視点から再評価する。

②主催：山梨県立男女共同参画推進センター　ぴゅあ総合

共催：山梨県立大学地域研究交流センター・やまなし地域女性史「聞き書き」プロジェクト（平成 28 年度「教員の地域貢献活動」支援事業の一つ）

後援：ＮＰＯ平塚らいてうの会、ＮＰＯ現代女性文化研究所

③日時　　第 1 回：2016 年11月 5 日(土) 13 時 30 分～16時 30 分

第 2 回：2016 年11月 19 日(土) 13 時 30 分～16時 30 分

④会場:山梨県立男女共同参画推進センターぴゅあ総合　小研修室

⑤講師、実施状況

第１回「平塚らいてう生誕 130 年

らいてうの拓いた地平　――私たちは何を託されたのか」

講師：米田佐代子（らいてうの家館長・女性史研究家）

コーディネーター：池田政子（地域研究交流センター特任教授・プロジェクト代表）

第２回「夢二を変えた女（ひと）　笠井彦乃」

講師：坂原冨美代（夢二研究会代表・ＮＰＯ現代女性文化研究所理事）

コーディネーター：池田政子

⑥参加者　　第１回：５９名　　第２回：４０名

⑦参加者からの感想(抜粋)など

満足度：第１，２回とも、アンケート回答者の全員が「満足」「まあ満足」と回答。

第１回の感想：米田先生のお話は大変わかりやすく、平塚らいてうの考え方・生き方を知ることができました。世の中を少しでも暮らしやすい平和な社会にするために、小さなことから取り組んでみたい／大変良い企画でとても良い会でございました。企画された方は大変ご苦労されたとお察しします／中身の濃い、意義ある講座でした。関係者の方、ありがとうございました／貴重なお話、ありがとうございました／△会場を広いところにして、多くの人が聴けるようにしてほしい／△3 時間、集中力を持続させるのは大変だった。

第２回の感想：ほとんど無知であった彦乃さんについて、こんなにも豊かに愛情をもって語っていただき、心から感謝し伝えて参りたいと思いました／掘り出された研究内容であり、あまりいつでも聞けることでないので、関係者に感謝いたします／貴重なお話を聞くことができた／名前しか知らなかった彦乃について、理解を深める機会を得られてよかった／ありがとうございました。すばらしい会でした。

⑧山梨日日新聞掲載記事

第 1 回：2016 年 11 月 10 日

「らいてうの思想今こそ　『平塚らいてうの会』会長　米田さん甲府で講演」

第 2 回：2016 年 12 月 1 日

「夢二が認め、影響し合う仲　「最愛の女性」彦乃　めいの坂原さん甲府で講演」

（文責：池田政子）

４．学部共催事業

（１）ソーシャルワークセミナー2016（人間福祉学部福祉コミュニティ学科）

①テーマ：農福連携の現状と課題について

②講師：農村振興局農村政策部都市農村交流課課長補佐（高齢者対策班）木下　卓氏

総括：山梨県立大学キャリアアドバイザー　中里　良一氏

司会：山梨県立大学人間福祉学部福祉コミュニティ学科教授　柳田　正明氏

③日時：平成 28 年 10 月 24 日（月）18：00～19：30

④場所：山梨県立大学飯田キャンパス　講堂

⑤参加人数：125 名　（内訳）学生 103 名、教員 3 名、職員 2 名、学外者 17 名

⑥内容概要：

農林水産省農村振興局農村政策部都市農村交流課 課長補佐 木下卓氏をお招きし、「農福連携の現状と課題について」というテーマで主に障害者雇用との関連の中から下記の 6 つの項目についてご講演いただいた。

・なぜ今、農福連携なのかを農業側と福祉側の視点に立って説明

・農林水産施策における農福連携の位置づけ

・農福連携の現状について事例等を踏まえて説明

・農福連携の課題や効果について、アンケート調査結果を基に説明

・農林水産省及び厚生労働省の支援策等について説明

・農福連携の展望を考察

また、本学キャリアアドバイザー中里良一先生より、本学の農福連携の現状と今後の県内外での取り組み状況についてお話をいただいた。

⑦参加者アンケート（抜粋）：

【学生感想】

・農福連携することで、障害者には雇用が創出されるばかりでなく、やりがいを与えることにもなる。農業側では手が足りない所を補え、より質の高い農作物をつくることができ、素晴らしい連携だと思った。

・農業は障害者のストレングスを生かせる手段の一つだと感じた。「個別化」というのがいかに大事か分かった。

・農業と障害者の課題解決を目指し、双方にメリットがある取り組みが農福連携だとわかりました。この取組が地元の人を巻き込み、農業と福祉の枠を超えた地域のつながりになっていると感じました。

・サービス業が増える中で農業という分野に障害者の就労が増えることは人手不足の所に障害者に働いてもらうというふうにもとらえられると思いました。

【学外関係者感想】

・農福連携はどちらかというと福祉サイドの思いが強いと思う。本当に win-win とするためには資料にあったように、障害者の特性に合った作業を組み合わせることとコーディネーターをいかに確保すること等課題は多いと思う。

（文責：高木寛之）

（２）英語特別講演会（国際政策学部）

THE FIRST ENGLISH VOYAGE TO JAPAN,1613　～英国船による日本への最初の航海～

①日時：2016 年 10 月 27 日（木）　13:00~14:30

②講師：Professor Graham Parry　　英国ヨーク大学名誉教授　グレアム・パリー先生

③会場：山梨県立大学飯田キャンパス 講堂

④参加者 約 80 名（学生 50 名、一般 19 名、教職員 8 名　他）

⑤講演要旨： 講師の英国ヨーク大学名誉教授グレアム・パリー先生が”The First English Voyage to Japan, 1613″というタイトルで、江戸時代初期に日本を訪れた英国船クローブ号の航海と艦長のジョン・セーリスによる日本滞在の記録を、具体的に解説してくださいました。学生のほか外部一般の方も多く含まれ、パリー先生による英語講演に大変熱心に耳を傾けていました。

（文責：高野美千代）

（３）健康講座（看護学部）

①テーマ：ストレッチをとおして、からだのメンテナンスをしましょう！！
　　－みんなと楽しみながら、身体をほぐしてみませんか？－

②目　的：自分のからだに触れ、自分のからだを見つめる機会を通して、日頃から自分のからだに関心をもてる。さらに、自宅において、自分１人でも簡単にできるフットケアやストレッチの方法を学び、心身のセルフケアを継続することで、健康の保持増進に繋げることができる。

③実施時間：平成 28 年 12 月 3 日(土)　午後　1 時 30 分～3 時 30 分

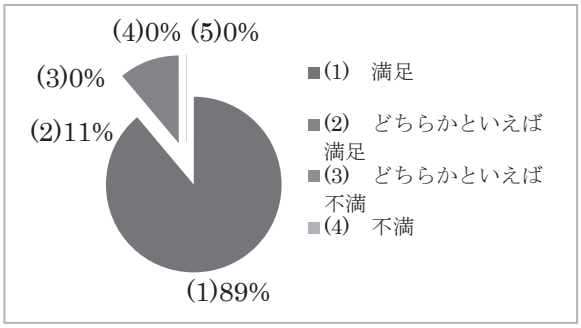
④実施場所：山梨県立大学池田キャンパス

⑤講師：田中夕起子氏 エアロビクス Y’s 代表山梨フィットネス協会 Rien 会長

⑥実施状況：出席者は 39 名（大人 38 名、子供 1 名）で本学の学生も 10 名参加した。年代は 10 代から 80 代までの幅広い年代の方々が、最後まで各々が楽しみながら実践を通しての講座となった。

まず、自己紹介と参加目的を共有した後、講師よりからだの内側から、きれいになるためにとしてからだの仕組みと日ごろのケアの重要性について講義を聞いた。その後、アロマオイルを下肢に塗り、フットマッサージを各自で行った。休憩をはさんで体験をとおして、自宅で実施できる全身のストレッチについて学んだ。

アンケート集計結果をみると、回収数 36(回収率：94.7%、有効回答率 100%)今回「初めて参加した」のは 15 名 41.7%で、他は「前にも参加したことがある」と述べた方が多く、その内訳は、池田地区の自治会、愛育会の関連の方の参加であり、地域の協力によって今回の開催に繋がった点が伺える。



また参加の満足度は、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせると 100%であった。

講座開催の時間については「ちょうどいい」と回答している方が多く、土曜日の開催を希望している方が、6 名いた。

意見・感想では「とても楽しかった」「定期的にやってほしい、回数を増やしてほしい」「体がほぐれた、軽くなった」や「もう少し実技をしたかった」「家でも実践してみよう」など肯定的な感想であった。

⑦今後の課題：最終的には会場が一杯になるほどの参加者となったが、当日まで HP の掲載、チラシの配布、池田地区への回覧等によって講座の周知に努め、大変厳しい状況にあった。看護学実習や大学で開催される他講座との日程調整によって、時期が 12 月になることもその要因の 1 つとなると考えられる。参加者の声からは、大変良い機会ととらえており、今後は、さらに地域との連携を深めつつ、開催時期等について検討していくことが必要である。

（文責：松村・白田）

（４）第８回保育リカレント講座（人間福祉学部人間形成学科）

①名称　　第８回保育リカレント講座　「『気になる子』とその保護者への支援」

②講師　　前嶋元　氏（東京立正短期大学講師）

③開催日時　2017 年 2 月 4 日（金）13：30 ～16：00

④開催場所　飯田キャンパス　講堂

⑤参加人数　総計　51 名　（内訳）学外者 39、学生 5、教員 7

⑥内容概要　園、学校における幼児・児童・生徒・その保護者への支援に携わっておられた経験から、保育者として保護者として、どのように「気になる子ども」へ対応

すればよいのか、一人一人の個性を尊重しつつ、発達を促す方法をご教授いただき、学ぶ機会となった。

⑦学外参加者からのご意見・ご要望

・子ども目線がどこにむいているかいつもそっと見守ることも大切。これから支援に関わる時とても役に立つ話を具体的に聞けた。（子育て支援関係者）

・子育て経験から場面が目に見えて思い出された。小学校の先生方に聴いていただきたい研修だと思う。（会社員）

・具体的な支援の仕方をクイズを用いた形式でわかりやすい内容であった。今後の保育につなげていきたい。(幼稚園・保育所関係者)

・気になる子についての関わり方で悩んでいたがたくさんのヒントをもらえる話しが聞けた。自分の保育をもう一度見つめ直す良いきっかけになった。（幼稚園・保育所関係者）

・大人も子供でも本人の気持ちを汲み取ることの重要性が同じであることを改めて感じた。保育する側がどうアプローチしていくかを示されとても興味深い内容であった。（障碍者施設支援員）

・実践的な内容で、本で調べるよりイメージしやすかった。心に寄り添うことの大切さを改めて感じた（学生）

（文責：村木洋子）

５．授業開放講座事業

平成 28 年度前期は以下の 19 科目が開放され、延べ 5 名が受講した。

社会と歴史、日本経済論、環境社会学、生活環境論、貿易論、アジアの歴史Ⅰ、地域研究論、中国の社会経済、地域プロジェクト論、社会言語学、東アジアと日本、国際コミュニケーション基礎演習Ⅲ（吉田２年生ゼミ）、課題演習Ⅰa（吉田３年生ゼミ）、国際コミュニケーション演習（卒業研究：吉田４年生ゼミ）、日本語の歴史、公的扶助論、精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ、精神保健福祉相談援助の基盤（専門）、性のヘルスプロモーション

平成 28 年度後期は、以下の 26 科目が開放され、延べ 9 名が受講した。

人間と思想、ジェンダー論、山梨学Ⅱ、共生社会論、国際理解演習（韓国）、国際経済論Ⅰ、韓国の社会と文化、日本語の構造（音韻・文字）、文化政策論、マスメディア論Ⅱ、メディア・リテラシー、日中関係の歴史、英文法１、英語の構造（統語）、国際開発論、課題演習Ⅰｂ（国際理解）、国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ演習（卒業研究：吉田均ｾﾞﾐ）、言語学概論、障がい児保育、対象理解Ⅱ（障害）、障害者福祉論Ⅱ、精神疾患とその治療Ⅰ、被服環境学、多文化教育論（中・高）、　母性看護学Ⅰ、ケアのジェンダー学

（文責：村木洋子）

地 域 研 究 部 門

１．部門事業の概要

地域研究交流センター（以下センター）では、地域の現代的ニーズを踏まえた課題解決につながる研究、地域文化の発掘と活用、地域文化の創造につながる研究、地域に貢献する特色ある教育に関する研究を、３学部・研究科の教員から参加を募り、研究事業を実施している。研究事業には、センターが重点的に取り組む必要があると認め、複数学部の教員が参加するプロジェクト研究と、それ以外で地域貢献に資する共同研究がある。

本部門はこの事業の実施のために、企画、募集、選考、予算決定、研究進捗管理、報告書作成、研究報告会開催、評価などに関わった。

２．部門事業の実績と課題について

今年度の早い段階で、前年度に行われたセンター地域研究事業に係る評価を実施した。評価は評価委員会（学長、理事（教育担当、研究担当の２名）、センター長、センター地域研究部門長の学内委員５名と学外委員１名の計６名）により行われた。地域研究事業に係る評価は今回が２回目（2年目）で、今回から初めて学外委員（1名）が加わった。学外委員には（公財）山梨総合研究所専務理事に就任いただいた。評価結果は、当該研究の代表者にフィードバックするとともに、代表者が引き続きセンター地域研究事業に応募した場合の選考の参考とした。

平成２８年度のセンター地域研究事業については、学内公募を行い、7 件の応募があり、選考委員会による審査を経て、以下の７件が採択され、実施された。

（１）穴切地区介護予防ネットワークの構築　１　～在宅高齢者に対する介護予防ニーズに関する研究～
（２）日本語を母語としない子どもたちの未来を考えるプロジェクト　－多言語による進路進学ガイダンス開催の意義－
（３）赤ちゃんの健康を守るための家族へのスキルアップ支援
（４）山梨県の小学校における「外国語活動」の効果的運営に関する実践的研究Ⅲ
（５）双方向型の高大連携による地域資源を活かした授業モデルの構築
（６）在留外国人の妊娠・出産・育児期における行政保健師の支援
（７）地域産業資源を活かしたビジネス開発と絹織物文化の再興を考える　－甲斐絹文化の地域産業史的研究と織物産業ネットワークの形成のために－

上記研究の報告会を３月に開催し、多数の方にご参加いただいた。

地域ニーズを的確に捉えた研究事業を推進していくとともに、研究成果を地域社会に還元し、地域を支える行政や産業界、団体、NPO、教育機関、医療機関、福祉施設、住民の方々に、より一層ご活用いただくため、研究成果の効果的な発信にこれまで以上に心掛けていきたい。

（文責：波木井昇）

【地域研究部門の個別事業】

１．地域研究事業

（１）穴切地区介護予防ネットワークの構築　１

～在宅高齢者に対する介護予防ニーズに関する研究～

１）研究目的

①介護予防ネットワークの一部として大学周辺地区において介護予防相談会を設け、地域の介護予防ニーズ（介護リスク）明確にすることによってそれを基にした「地域高齢者のニーズを基にした」、「高齢者が主体的にできる介護予防法を学ぶ」という新しい介護予防教室の提言を行う。

②介護ニーズと介護予防教室の配置を分析し、適正配置への提言を行う。

③介護予防相談会の運営に関するマニュアル化を行う

２）研究内容と成果

介護予防相談会を開催し、おたっしゃ２１を使用して介護予防ニーズ（介護リスク）を測定した。介護予防相談会の総参加者は 109 名であった。外部からの参加者 13 名と性別等の無記入者を除外し、統計可能者数は 82 名（男性 30 名、女性 52 名）であった。

参加者全体の平均点は虚弱が 2.02、転倒が 2.76、尿失禁が 1.95、低栄養が 2.06、軽度認知症が 0.29 であった。この平均点を超えているものが、年代別では 40 代の低栄養（2.33）80 代の虚弱（5.38）、(5.77)、尿失禁(5.08)、低栄養(3.77)、軽度認知症(1.54)、90 代の虚弱(3.00)、転倒(7.00)、低栄養(4.00)であった。おたっしゃ 21 の基準値（虚弱・転倒・尿失禁 5 点、低栄養・軽度認知症 4 点）を超えたものは 80 代虚弱、転倒、尿失禁、90 代転倒、低栄養であった。

表 1.　世代における平均点

	虚弱	転倒	尿失禁	低栄養	軽度認知症	人数
全体	2.02	2.76	1.95	2.06	0.29	82
40 代	1.33	1.33	0.33	**2.33**	0.00	3
50 代	0.60	0.80	0.40	1.20	0.00	5
60 代	1.39	2.13	1.16	1.77	0.00	31
70 代	1.48	2.41	1.83	1.66	0.14	29
80 代	**5.38**	**5.77**	**5.08**	**3.77**	**1.54**	13
90 代	**3.00**	**7.00**	2.00	**4.00**	0.00	1

結果より、80 代のリスクが高いことと開催場所(大学)との距離が参加人数と反比例し、大学との距離が遠い地域ほど参加者が少ないことが明確になった。80 代への介護予防の介入が喫緊といえるが 80 代の体力・筋力の低下は加齢に伴う自然な変化なので、筋力増強によるメリットと身体的負荷によるリスクのバランスの検討を要する。また予防を重視するのであれば 80 代未満の高齢者への介護予防介入が不可欠である。

開催場所(大学)と居住地間の距離と人数が反比例することについては、免許返納促進の傾向や交通手段の少なさによるものと考えられた。今回は公民館等を使えず 4 回全て大学で開催したが、公民館・いきいきサロン・防災訓練など近隣の方が集まる場所・機会を検討することで今後の周知徹底とより多くの参加者を期待したい。

３）研究メンバー

＜研究代表者＞

青柳　暁子（山梨県立大学人間福祉学部福祉コミュニティ学科）

＜共同研究者＞

渡邊　裕子（山梨県立大学看護学部）

出沢　秀子（甲斐清和高等学校非常勤講師）

高山　理恵（甲府中央包括支援センター）

相吉　泰夫（穴切地区自治会連合会会長）

畠山　義子（峰本いきいきサロンくわの実会　スタッフ）

（文責：青柳暁子）

（２）日本語を母語としない子どもたちの未来を考えるプロジェクト
－多言語による進路進学ガイダンス開催の意義－

１）研究目的

本プロジェクトは今年度 3 つの目標を掲げた。この 3 つの目標に対する研究目的は 2 つである。1 つは多言語による進路進学ガイダンスと高校進学ガイダンス開催による意義を検討すること、もう 1 つは研究会での発表を通して他地域における高校進学ガイダンスの実施状況とそれに伴う課題を調査することである。以下がそれぞれの目標と目的である。

〈目標 1〉外国人保護者とその子どもたちのための進路進学ガイダンス　第 1 回目の開催

【目的】中学 1 年生から 3 年生の子どものいる保護者とその子ども、通訳者、支援者を対象に、進路進学について母語で学ぶ機会を提供する。

〈目標 2〉外国人保護者とその子どもたちのための高校進学ガイダンス　第 2 回目の開催

【目的】中学 3 年生の子どものいる保護者とその子どもを対象に、高校進学について母語で学ぶ機会を提供する。

〈目標 3〉子どもの日本語教育研究会でのポスター発表

【目的】実践と研究をつなぐコミュニティの場として発足した「子どもの日本語教育研究会 第 1 回研究会」に参加し、他地域の取り組みから知見を得る。

２）研究内容と成果

〈目標 1〉と〈目標 2〉では、当該ガイダンスに関わる様々な立場からの声をデータとして、ガイダンスの意義を検討した。その結果、多言語によるガイダンス開催は、保護者、生徒、教育関係者、支援者等に肯定的に受け止められていることがわかり、開催の意義が認められた。第 1 回目の参加者は 30 人・5 か国（中国 10、ブラジル 6、ペルー6、ベネズエラ 4、日本 1、見学 3）であった。使用言語は 7 言語（日本語、スペイン語、ポルトガル語、英語、タイ語、中国語、韓国語）を準備した。第 2 回目の参加者は 24 人・7 か国（中国 5、ブラジル 5、ベトナム 3、ペルー2、ベネズエラ 2、インド 1、日本 1、見学 5）であった。言語は前回参加者のいなかったタイ語を除き 6 言語（日本語、スペイン語、ポルトガル語、英語、中国語、韓国語）を準備した。ガイダンスへの国籍別参加状況は、ブラジル、中国、ペルーの順に多かった。

〈目標 3〉では、実践と研究をつなぐコミュニティの場として発足した「子どもの日本語教育研究会」（於 京都教育大学）に参加し、他地域におけるガイダンスの実施状況と本県との共通点・課題等について意見交換を行った。ポスター発表を通して、メンバーそれぞれが他地域における実施状況からの知見を得ることができ、次年度に向けた気づきが生まれた。

３）研究メンバー

研究代表者：萩原孝恵（国際政策学部）

共同研究者：斉藤祐美（やまなし子ども学習支援連絡協議会）、小林信子（やまなし子ども学習支援連絡協議会）、川手ちなみ（南アルプス市国際交流協会日本語サロン・ソルデアミーゴ太陽の友だち）、原田かおり（山梨県立大学非常勤講師）

（文責：萩原孝恵）

（３）赤ちゃんの健康を守るための家族へのスキルアップ支援

１）研究目的

山梨県に住む 1 歳未満の第 1 子を子育て中の家族を対象に子どもの健康を守るためのスキルアップ講習会を開催し、今後の子育て支援プログラム継続のために、実施した講習会を評価する。

２）研究内容と成果

講習会は 1 時間を一回として全 3 回、3 クール（期）行った。内容は、第 1 回目は「赤ちゃんを育てるご家族へ　小児科医からのメッセージ」をテーマとし、研究メンバーである小児科医が、愛着形成について、乳児期の成長発達を踏まえて子育ての心構えなど約 30 分間講義し、その後質問の時間とした。第 2 回目は「母子手帳の活用の仕方」をテーマに、看護学部教員が、乳児期に起こりやすい事故として、窒息が多い理由やその対応について母子手帳を見ながら 10 分程度講義した後、乳児人形を用いて気道異物除去法と、心肺蘇生法と視野体験メガネを装着して子どもの視野を体験する演習を行った。第 3 回目は「病気の時の親の対応」をテーマに、子どもの健康状態の見方、機嫌と体調の関係、受診する目安など約 30 分間講義した。講習会後

は質問の時間にした。

参加者へのアンケートから講習会を評価した。アンケートは各講習会の終了後に講習会の開催方法や内容の感想等を参加者が記入し、回収箱に投函してもらった。さらに、講習会終了してから３ヶ月後に、了解を得られた参加者にアンケートを郵送し、講習会が現在の育児に役立っていることなどについて回答してもらった。

各講習会の参加者は３期通して 20 名で、参加者全員が乳児を連れて受講した。講習会中に子どもがぐずるときは、研究メンバーがあやしたり寝かしつけるなど、参加者が集中して講義を受けやすいように配慮した。

講習会後のアンケートでは、各回ともにすべての参加者が「育児の役に立つ内容であった」と答えていた。「子どもとの（愛着が）形成されていることがわかり安心した」「いざという時の心構えができた」などの自由記載があり、講義を受けて安心感や演習による体験で理解が深まったことが伺われた。講習会３ヶ月後のアンケートでは、『子どもの体調をみる』『子どもにゆったりとした気持で関わる』『子どもの目線で見る』ことを育児の中で意識して行うようになったと回答しており、「子どものことをより観察できるようになった」　「体調不良時には観察して先生に伝えるようにしている」などの記載からも、子どもの健康を守るスキルアップにつながったと評価する。

開催時間と開始時間については、適当であるとの回答が 90%以上であった。「少人数なのでアットホームでよい」「子どもを見てもらえたので安心して話が聞けた」の感想があり、開催方法は妥当であった。参加者同志話しをした人は 50%と半数であったこと、各回の参加者が 5～9 名であったことから、今後の課題として、参加者の交流のきっかけを意図的に作っていくこと、開催の案内の周知方法を検討する必要がある。

３）研究メンバー

研究代表者：宗村弥生（看護学部）

共同研究者：横森愛子（看護学部）

井上みゆき（看護学部）

竹村眞理（健康科学大学看護学部）

新津直樹（医療法人新津小児科）

（文責：宗村弥生）

（４）山梨県の小学校における「外国語活動」の効果的運営に関する実践的研究 III

１）研究目的

この研究プロジェクトでは、山梨県内の小学校における「外国語活動」の効果的運営を実現することを目的とし、大きく２つの取り組みを計画した。

１つ目は、「外国語活動」の指導者を対象とする研修プログラムを研究・構築し、小学校教諭のためのセミナーおよびワークショップを開催することである。この研修プログラムによって、受講者となる小学校の先生方には英語教育に関する基本的な理論を理解した上で ALT や補助指

導員とのティームティーチングや個人で行う教授方法を修得してもらい、その成果が現場での教育に十分に還元されることをこの研究の最終目標に掲げる。

2つ目の柱として取り組みたいのは、地域に合った教材の作成であった。文部科学省では、「外国語活動用の教本」以外に各地域の地域性を反映した教材の使用を奨励している。これは、子どもたちに地域の文化歴史を理解させると同時に、今後想定される地域の国際化に対応するために極めて有用となる教材である。

２）研究内容と成果

①本プロジェクトの柱の一つである小学校教諭対象の英語研修会を 2 度開催することができた。昨年度と同様に、日本人教員だけでなく、実際に現場で教育に携わる ALT をも対象に含め、具体的にはつぎのような要領で行った。

・第 1 回

日時：2016 年 7 月 2 日（土）午前 9 時～12 時

場所：山梨県立大学飯田キャンパス C 館 102 教室

講師：Brian Byrd 先生、藤原真知子先生（聖学院大学、聖学院小学校講師）

講座内容：Stories, Songs, and Games for Elementary School Students

受講対象者：小学校教諭、ALT

参加費：無料

・第 2 回

日時：2017 年 1 月 28 日（土）午前 9 時～12 時

場所：山梨県立大学飯田キャンパス C 館 102 教室

講師：Brian Byrd 先生、藤原真知子先生（聖学院大学、聖学院小学校講師）

講座内容：Teaching Classroom Subjects in Simple English

受講対象者：小学校教諭、ALT

参加費：無料

②平成 26 年度に引き続き、平成 27 年度の山梨県立大学地域研究交流センタープロジェクトにおいて、英語学習のための山梨県の地域教材を作成した。教材は *Yamanashi English* と題するもので、山梨県の文化、地理、民話等を取り入れて作成した。平成 28 年 4 月より、山梨県内の小学校その他への配布を行った。意外にも小学校以外からの反響が大きく、地域における英語学習への関心あるいは「英語で地域を紹介すること」についての関心が高いことが感じられた。そこで今年度も地域教材作成に取り組み、ますます国際化する地域社会で英語による文化発信を促進するような教材の開発を試みた。*Little Gems of Yamanashi* と題する教材は山梨の民話をシンプルで親しみやすい英語でまとめたものである。29 年度以降、小学校教育現場で使用してもらえることを意図している。

３）研究メンバー

高野 美千代	国際政策学部	研究代表者・研究統括
石田 一元	甲府市立東小学校	共同研究者・運営補助
伊藤 ゆかり	国際政策学部	共同研究者・運営補助
池田 充裕	人間福祉学部	共同研究者・専門知識提供
Peter Mountford	国際政策学部	共同研究者・教材制作
長澤 史	昭和町立西条小学校	共同研究者・コーディネート

（文責：高野美千代）

（５）双方向型の高大連携による地域資源を活かした授業モデルの構築

１）研究目的

身延高校と協力して、高校生自らが積極的に発言し、考え、自分たちなりの結論を導きだせるよう高校教員と大学教員とが協働して身延町を初めとした地域資源に関する授業を行い、その結果は高校生自らが町等の自治体に対し提言することを目指す。各教員が連続した視点で生徒・学生の指導に当たり、その内容をそれぞれの教育でも反映させることにより、従来型の大学による一方的・単発的な関与ではない「連携」と言うにふさわしい双方向の関係を構築するための方法論を獲得する。同時に峡南地域の地域資源を活かした同地域ならではの特色ある教育とは何かを模索し、地域における特色ある教育の一つのモデル双方向型の高大連携による地域資源を活かした授業モデルの構築を確立する。

２）研究内容と成果

①「QR コード」を使った観光プロモーション

生徒の発案により、身延町の観光プロモーションを、「QR コード」を使って行うというプロジェクトとなった。さらに「QR コード」のアクセスログの解析によって、観光マーケティング情報の収集も行った。「QR コード」はポスターに埋め込み、観光客が楽しみながらアクセスできるよう「おみくじ」と「ゲーム」というコンテンツにした。ポスターの掲示場所については、RESAS の解析を用いて、観光客の誘導効果が見込まれる場所を選定した。

②「動画」を使ったプロモーション

「みのぶまんじゅう」の PR ビデオを制作し、YouTube に掲載した。町内の４店舗の PR 動画、身延町の観光資源と組み合わせた動画４本、高校生活と組み合わせた動画１本の計９本である。

③RESAS の活用

今年度より高大連携事業においても、身延町の客観的状況を統計的に把握するため、「地域経済分析システム（Regional Economy (and) Society Analyzing System）」を導入した講義を開始した。

④総括

今回は、短期間に取材、撮影を行いながら、ポスターデザイン・制作、WEB デザイン・制作、動画制作を同時に進めるという密度の濃いプロジェクトであった。秋以降の集中的な作業で、これだけの成果を得られたのは何より生徒自身の努力と意欲の賜物である。また高校側教員の並々ならぬ尽力もあった。メディアの制作に関するプロジェクトで、これだけ多様な制作活動を同時に進める授業のプロジェクトでは異例のことである。このプロジェクトの成否は、高校

側の努力と意欲にかかっていることを改めて認識した。

昨年度の高大連携授業の成果が身延町に評価され、プロジェクトの財源があったことからメディア制作が可能になった。さらには昨年度プロジェクトに関わった吉田均教授が RESAS の活用を提案して下さるなど、幅広い協力体制が構築されていた。高大連携授業はこうした協力体制の構築が重要である。

３）研究メンバー

二戸　麻砂彦	国際政策学部教授	研究代表者（研究総括）
吉田　均	国際政策学部教授	共同研究者（講義・評価担当）
兼清　慎一	国際政策学部准教授	共同研究者（講義・評価担当）
笠井　以友	山梨県立身延高等学校教頭	共同研究者（講義・評価担当）
近藤　学	山梨県立身延高等学校教諭	共同研究者（講義・評価担当）
石川　丈夫	山梨県立身延高等学校教諭	共同研究者（講義・評価担当）
山上　雄大	山梨県立身延高等学校教諭	共同研究者（講義・評価担当）
小林　俊一郎	山梨県教育庁新しい学校づくり推進室	共同研究者（事務総括）
矢ノ下　健司	山梨県教育庁新しい学校づくり推進室	共同研究者（データ処理等事務）
佐野　ひかる	国際政策学部１年	ティーチング・アシスタント

（文責：二戸麻砂彦）

（６）在留外国人の妊娠・出産・育児期における行政保健師の支援

１）研究目的

本研究の目的は、在留外国人とその家族の妊娠・出産・育児期における行政保健師の支援について明らかにすることである。

２）研究内容と成果

2016 年 12 月、山梨県内の在留外国人の母親６人に調査を行い、妊娠・出産・育児中における保健師の支援について伺い質的に分析したところ、以下の結果が得られた。母親らの妊娠・出産・育児中の悩みや困ったことは全部で 18 のサブカテゴリから成る８つのカテゴリ【児の健康に関すること】【母の健康に関すること】【家族に関すること】【車による移動に関すること】【社会資源の不足】【家事労働の大変さ】【経済的な困難】【保健サービスに関する戸惑い】となった。また、このとき活用した保健師による支援は【妊娠～出産：妊娠届・母子健康手帳の交付】時では〈同じ保健師による支援の継続〉など４カテゴリ、【出産後・出生届】時では〈育児に関する社会資源の提供〉など２カテゴリ、【出産後・訪問指導】時では〈緊急時の家族への介入〉など５カテゴリ、【育児期　乳幼児】の時期には〈母の育児を認め、日本の文化とすり合わせて優しく分かりやすい指導を行う〉など５カテゴリであった。母らは他に〈保健師以外の行政・医療機関などによるソーシャルサポート〉や、〈そのほかのインフォーマルなサポート〉も活用していた。保健師に望むサポートとしては、〔健診をもっとやってほしい〕〔離乳食などの文化の違うことにアドバイスがほしい〕があった。

なお、在留外国人の母が活用した〈そのほかのインフォーマルなサポート〉については、大き

く二つあった。一つは実母や夫、親戚などの家族や縁者を強く頼って活用していることであった。複数の母において、妊娠・出産・育児期間中に祖国の実母が来日してサポートを行い、また日本から母国の実母に無料で気軽に利用できる Facebook などのネットワークを利用して相談等の支援を求めていた。もう一つは、任意団体や教会神父などの慈善団体の支援であり、育児や療育における母の困りごとに対して「spiritual な支援」を含む温かみのある支援を実施していた。在留外国人の母たちにとって異国の日本でこれらの任意団体や個人が行うインフォーマルな支援であり物理的、心理的な面で支えられることで感謝していた。それらの支援では例えば、普通自動車運転免許証や自家用車を持たない母子への、自宅から保育施設や療育施設間の送迎移動などが行われていた。こうしたインフォーマルな支援と保健師や行政が共に歩み寄り連携しながら、保健や医療のシステムの中で効果的に支援を進めていくことが、これから保健師にできる在留外国人母子への支援ではないかと考える。

３）研究メンバー

研究代表者　小尾　栄子（山梨県立大学看護学部　地域看護学）
共同研究者　渡邊　輝美（山梨県立大学看護学部　地域看護学）
村松　照美（山梨県立大学看護学部　地域看護学）
石原　敬子（山梨県中央市役所保健福祉部健康推進課　保健師）
佐野亀久子（日中交流情報センター　代表）
加藤　順彦（社団法人多文化リソースセンターやまなし　代表）

（文責：小尾栄子）

（７）地域産業資源を活かしたビジネス開発と絹織物文化の再興を考える
ー甲斐絹文化の地域産業史的研究と織物産業ネットワークの形成のためにー

１）研究目的

この研究は「地域資源を活かしたビジネス展開の可能性についてー甲斐絹の伝承と発信のためのプログラム開発ー」として地域研究交流センター研究として 2009 年度以来継続してきた事業を、今年度は産業史研究と郡内地域の絹織物復活へのムーブメントとのコラボレーションという課題を付け加え、あらたな形で継続発展させることを目的として出発した。

本事業はこれまで、伝統の継承と発信として、大学および高校における甲斐絹に関する講義や家庭科実習などの教育プログラムの開発と実施、復刻甲斐絹のビジネス化を手掛ける合同会社の設立や海外への発信などの分野で一定の成果を上げてきたが、本年度はこうした成果の上に立って、産業調査や地域の絹織物業の担い手らとの人的ネットワークを形成するとともに、甲斐絹を中心とする当該地域の文化のさらなる発掘と絹織物産業の今後を展望するような研究を今後数年かけて進めていくことを目的とした。

２）研究内容と成果

平成 28 年度の本研究事業の活動内容は以下の通りである。まず、甲斐絹の新しい用途の開発のため、地域のクラフト作家の発掘から着手した。これに関連した第 1 の成果は、産・官・学・金

の協力体制維持し、その連携を進化させたことであり、新製品開発にかかわって、地域のクリエーターとの協働を開始できたことである。その中で、新製品の今後の展望を開くため、研究会やワークショップを通じて、商品化とマーケティングに対する共通の認識を獲得することができた。また、学生による甲斐絹の知名度向上と普及の活動は、多数の新入生を迎えて、展示会への出品、富士吉田地区見学、ブランディング勉強会の開催など、活発に行われたと言えよう。今年度の新しい取り組みとして、学生と共に産業史という側面からの研究を開始し、「富士工業技術センターは郡内織物業にとってどのような歴史的役割を果たしたのか」と題する研究ノートを完成させた。これが第 2 の成果である。これらの成果を得るにあたっては、㈱甲斐絹座、山梨県商工労働部産業支援課、山梨県富士工業技術センター、㈱山梨中央銀行の各参加団体及び研究会参加メンバーによる支援が不可欠であった。また、本研究事業の準備段階では本学の共同研究者による事業への積極的な取り組みが重要な役割を果たしたこと対して研究代表者として感謝したい。

３）研究メンバー

＜研究代表者＞

黒羽雅子　山梨県立大学国際政策学部

＜共同研究者＞

斉藤秀子　山梨県立大学人間福祉学部

波木井昇　山梨県立大国際政策学部

古屋祥子　山梨県立大学人間福祉学部

渡邊幸示　山梨県産業労働部地域産業振興課

五十嵐哲也　山梨県富士工業技術センター繊維部

秋本梨恵　山梨県富士工業技術センター繊維部

前田市郎　㈱甲斐絹座　㈱前田源商店

田辺丈人　㈱甲斐絹座　㈲田辺織物

長田武生（株)山梨中央銀行営業統括部公務･地方創成室

武藤拓路（株)山梨中央銀行営業統括部公務･地方創成室

杉山茂　　杉山江見堂

黒羽ゼミ生等 19 名（同)飯田甲斐絹堂学生組織

（文責：黒羽雅子）

２．研究報告会

2016 年度の研究報告会を、2017 年 3 月 14 日（火）13:00～17:00 に飯田キャンパスＡ館 6 階サテライト教室で開催した。延べ 199 名の参加があり、7 つの研究事業の報告と活発な質疑が行われた。

戦略・開発部門

１．部門事業の概要

（１）本部門の設置目的

本部門の設置目的は、各種補助金、助成金や委託事業などの情報を収集し、学内に広報する。あわせてそれらの外務資金が獲得しやすいような組織や制度を学内に整備していくことにある。

（２）山梨県立大学地域研究交流センター組織改編案の検討の経緯

平成 29 年度「地（知）の拠点整備事業（以下、大学ＣＯＣ事業と省略)」 の終了に伴い、地域研究交流センター（以下、本センターと省略）は、大学ＣＯＣ事業の成果を引き継ぎ発展させることとなる。

そのため本センターでは、平成 27 年度第 1 回センター運営委員会（平成 27 年 4 月 21 日）において、平成 25 年度に採択された大学ＣＯＣ事業により本学に設置された地域戦略総合センターとの統合合併の検討を開始した。

その後平成 27 年度には、本学も参加して新たに文部科学省に申請した「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（ＣＯＣ＋)」の動向を見極め、新たな改編案を検討することとなった。同年ＣＯＣ＋事業が採択され、実施体制もほぼ確定したため、第 7 回センター運営委員会（平成 28 年 3 月 17 日）で、再度本案が検討された。その結果、本センターでは、前倒して平成 28 年度より大学ＣＯＣ事業によって本学に設置された地域戦略総合センターとの統合合併案を検討することとなった。

平成 28 年度に入り、山梨県立大学理事長兼学長　清水一彦のリーダーシップのもと、全学での学内委員会の統廃合の方針が出された。それに伴い本センターも、新たな視点での議論が開始された。下記の 3 回の運営委員会で、本センターの改組による縮小と、地域戦略総合センターとの統合に向けた熱い議論を行った。各会議における議題は、次のとおりである。

１）第 7 回センター運営委員会（平成 28 年 11 月 15 日）
　・平成 29 年度当初予算について

２）第 8 回センター運営委員会（平成 28 年 12 月 20 日）
　・部門の統合と運営委員会について

３）第 9 回センター運営委員会（平成 29 年 1 月 17 日）
　・部門の統合と運営委員会について
　・山梨県立大学地域研究交流センター部門等運営要項の改正について

以上の討論の結果、下記の２の内容を決定した。なお議論にあたっては、委員数の縮小による本センターの現行事業の継続実施は難しいとの意見が多く寄せられた。しかしながら全学の学内委員会での統廃合の方針を、本センターも受け入れることとした。

２．山梨県立大学地域研究交流センターの組織改編の内容（2017 年 1 月 17 日）

（１）概要

①平成 29 年度大学ＣＯＣ事業の終了に伴い、本センターが地域戦略総合センターと統合合併することで、本センター事業と大学ＣＯＣ事業およびＣＯＣ＋事業の成果を引き継ぎ発展させ、山梨県における知の拠点となることを目指す。

②そのため先行して本センターでは、山梨県立大学理事長兼学長　清水一彦のリーダーシップのもと実施された、全学での学内委員会の統廃合の方針に基づき、Ａ）本センターの各部門の統廃合と、Ｂ）委員削減を伴う組織の改組を、平成 29 年度より実施する。

（２）組織の改編内容

①本センターの改組

これまで本センターでは、５部門で分担して活動を行ってきた。しかしながら全学的な委員会の再編や今後の地域戦略総合センターとの統合をにらみ、効率的な業務の遂行に向けて、以下の３部門に統合することとした。

また上記の改組により、本センター運営委員会委員の構成も、以下のように変更し、各部門員を兼任することとした。これにより従来業務を担ってきた運営委員を兼務しない単独での部門員は、原則廃止する。

【部門について】

（現行）		（改訂）
生涯学習部門	⇨	生涯学習部門
交流・支援部門	⇨	交流・発信部門
情報発信部門	⇨	交流・発信部門
戦略開発部門	⇨	地域研究部門
地域研究部門	⇨	地域研究部門

【運営委員会について】

本センター運営委員会は、各学部の専任教員３名および当該年度の本センター特任教授によって構成する。

②運営要項の改定

上記の組織改編に伴い、「山梨県立大学地域研究交流センター部門等運営要項」（平成２２年４月１日制定　地研セ第８１０１－１号）を改訂した。改定後の新運営要項は、下記別紙１のとおりである。

（文責：吉田均）

別紙１

山梨県立大学地域研究交流センター部門等運営要項
（平成２２年４月１日制定　地研セ第８１０１－１号）

（趣旨）
第１条　この要項は、山梨県立大学地域研究交流センター運営規程第８条第２項の規定に基づき、山梨県立大学地域研究交流センター部門等（以下「部門等」という。）の運営に関し必要な事項を定める。
（目的）
第２条　部門等は、次の各号に掲げる事項を審議し、必要に応じてセンター事業の業務を分担する。
（１）　部門等の運営及び事業の企画、立案及び実施に関する事項
（２）　その他センター長が付議する事項
（構成）
第３条　部門等の構成は、次の各号のとおりとする。
（１）　地域研究部門
（２）　生涯学習部門
（３）　交流・発信部門
（４）　その他センター長が必要と認める部門等
（部門長）
第４条　前条に規定する各部門等に、それぞれ部門長を置く。
２　部門長は、山梨県立大学地域交流センター運営委員会（以下「委員会」という。）において選出する。
３　部門長は、当該部門等を統括する。
４　部門長に事故あるときは、あらかじめ部門長が指名する部門員がその職務を代行する。
（部門員）
第５条　部門等の委員（以下「部門員」という。）は、次の各号のいずれかに該当する教員をもって組織する。
（１）　学部長又は学科長が推薦した教員
（２）　センター長が指名した教員
（部門会議）
第６条　部門会議は、部門長と部門員から構成する。
２　部門長は、部門会議を開催する。
３　部門長は、必要に応じて、部門員以外の者の出席を求めて、意見を聴くことができる。
４　部門長は、審議の経過及び結果を集約し、センター長に報告しなければならない。
５　部門会議の記録は、部門長が保管しなければならない。
（委任）
第７条　この要項に定めるもののほか、部門等の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附　則
この要項は、平成２２年４月１日から施行する。
附　則
この要項は、平成２９年４月１日から施行する。

事 務 局

１．運営委員会記録

１．第１回　平成２８年４月１９日（火）

主な協議・報告事項：平成２８年度の委員配置について／日本政策金融公庫との包括連携協定について／平成２８年度共同研究・プロジェクト研究公募について／平成２８年度観光講座について／研究評価委員会の開催について／大学と周辺自治会との懇談会について

２．第２回　平成２８年５月１７日（火）

主な協議・報告事項：「教員の地域貢献活動」の支援について／秋季総合講座について／平成２８年度県民コミュニティーカレッジについて／平成２８年度子育て支援リーダー実力アップ講座について／日本政策金融公庫との「産学連携の協力推進に関する覚書」締結について／道志村立道志中学校の訪問について／やまなし地域女性史「聞き書き」プロジェクト 2015 年度研究報告書について／日本で生活する外国人のための「日本語・日本文化講座」について

３．第３回　平成２８年６月１４日（火）

主な協議・報告事項：平成２７年度地域研究事業評価委員会の実施報告／平成２８年度地域研究事業選考委員会の実施報告／地元自治会との懇談会について／甲府城西高校との高大連携授業について

４．第４回　平成２８年７月１９日（火）（メール会議）

主な協議・報告事項：人間福祉学部「福祉・教育実践センター」について／国際政策学部共催講演会について／平成２８年度後期授業開放講座の募集および開放講座科目について／公開講座における「山梨ことぶき勧学院 選択講座受講カード」及び「キャンパスネットやまなし 学びの手帳」の取り扱いについて／池田地区防災訓練の開催について／ニューズレター２９号について

５．第５回　平成２８年９月２７日（火）

主な協議・報告事項：授業開放講座の存廃について／ソーシャルワークセミナー2016 について／地域研究事業における研究報告書の作成について／平成２８年度ワクワク子育て親育ちプログラム学習講座について／「教員の地域貢献活動」支援について／生涯学習推進センター共催による講演会について

６．第６回　平成２８年１０月１８日（火）

主な協議・報告事項：秋季総合講座の実施報告／高大連携に係る協定締結について／県経済同友会との連携講座について／地元自治会との懇談会の実施報告／観光講座の実施報告／授業開放講座の存廃について

７．第７回　平成２８年１１月１５日（火）

主な協議・報告事項：授業開放講座の存廃について／平成２９年度当初予算について／大学案内 2018 について／第８回保育リカレント講座について／平成２８

年度学生優秀地域プロジェクトについて／子育て支援リーダー実力アップ講座の実施報告

８．第８回　平成２８年１２月２０日（火）

主な協議・報告事項：高大連携事業に関する協定書について／部門の統合と運営委員会について／健康講座の実施報告／学生優秀地域プロジェクトについて／授業開放講座の存廃について／平成２８年度ワクワク子育て親育ちプログラム学習講座の実施報告／平成２８年度「やまなしの女性史を学ぶ」講座の実施報告／研究報告会について

９．第９回　平成２９年１月１７日（火）

主な協議・報告事項：部門の統合と運営委員会について／センター部門等運営要項の改正について／学生表彰規程に基づく表彰学生の推薦について／2016 年度センター年報の執筆依頼について／学生優秀地域プロジェクトの選考結果について

１０．第１０回　平成２９年２月２１日（火）（メール会議）

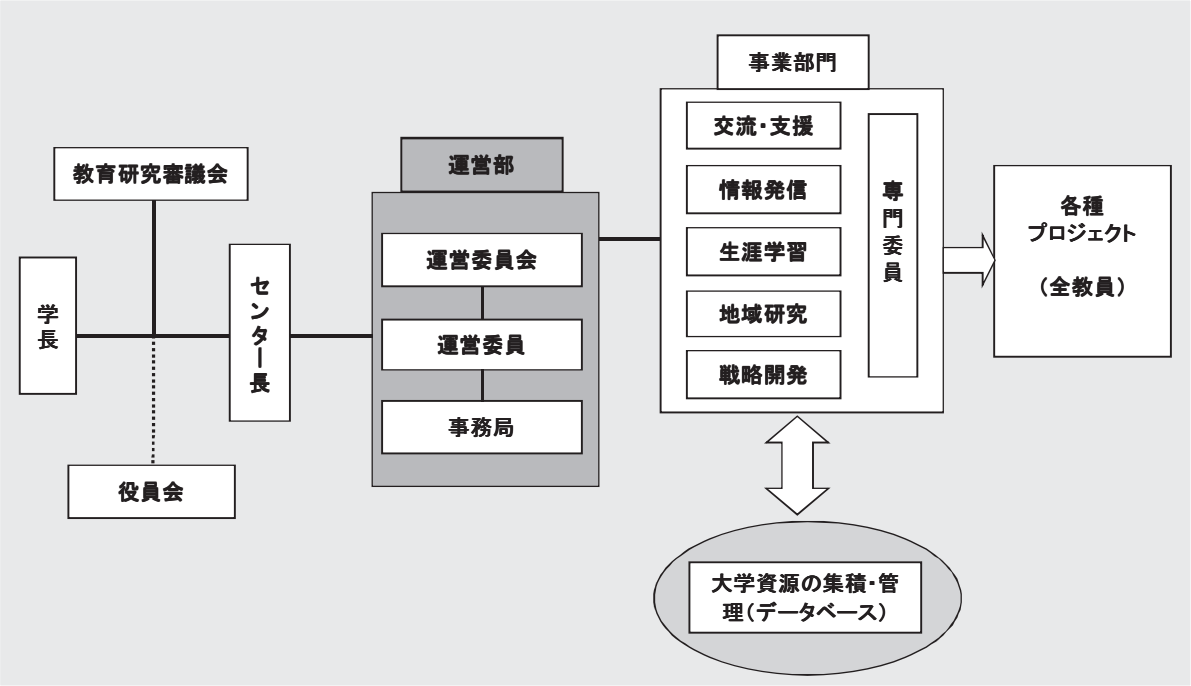
主な協議・報告事項：新講座「富士山の文化と自然を探る」の実施報告／保育リカレント講座の実施報告

１１．第１１回　平成２９年３月１４日（火）（メール会議）

主な協議・報告事項：平成２９年度当初予算の査定結果について／甲府城西高校との高大連携授業の実施報告／ニューズレター３０号について

2. 組織図・委員名簿

(1)組織図



(2)委員名簿

		総合政策学科	国際コミュニケーション学科	福祉コミュニティ学科	人間形成学科	看護学科	地域研究交流センター特任	国際教育研究センター
地域研究交流センター運営委員会		波木井昇	●二戸麻砂彦 吉田均 兼清慎一	藤谷秀 青柳暁子 高木寛之	村木洋子	村松照美 渡邊裕子	輿水達司 池田政子	任君三 橋本憲幸
事業部門（専門委員）	交流・支援		兼清慎一	◎青柳暁子 川池智子		渡邊輝美		
	情報発信	ケヴィン・ブラウン		◎藤谷秀	○古屋祥子	小尾栄子		
	生涯学習		大村梓	高木寛之	◎村木洋子	村松照美 白田梨奈		
	地域研究	◎波木井昇 申龍徹		柳田正明			輿水達司	
	戦略開発		◎吉田均			渡邊裕子		

運営委員は専門委員を兼務　●センター長　◎部門長　○副部門長

下線：運営委員以外の専門委員

3. 地域研究交流センター委員一覧

学 部	学 科	氏 名	専 門 領 域
国際政策学部	総合政策学科	＊ 波木井 昇	国際金融、国際経済
		ケヴィン・ブラウン	Language Testing
		申 龍徹	政治学、行政学、公共政策
	国際コミュニケーション学科	＊ 二戸 麻砂彦	日本語学、言語学
		＊ 吉田 均	国際開発、国際協力
		＊ 兼清 慎一	マスメディア論
		大村 梓	日本文学、比較文化
	国際教育研究センター	＊ 任 君三	アジア太平洋地域の国際関係
		＊ 橋本 憲幸	国際教育開発論、教育哲学
人間福祉学部	福祉コミュニティ学科	＊ 藤谷 秀	倫理学、哲学
		＊ 青柳 暁子	介護福祉（生活支援技術）
		＊ 高木 寛之	地域福祉
		柳田 正明	知的障害者福祉、地域生活支援
		川池 智子	社会福祉原論、児童・障害児福祉
	人間形成学科	＊ 村木 洋子	音楽、ピアノ
		古屋 祥子	美術、彫刻
看護学部	看護学科	＊ 村松 照美	地域看護学
		＊ 渡邊 裕子	老年看護学
		渡邊 輝美	地域看護学
		小尾 栄子	地域看護学
		白田 梨奈	基礎看護学
地域研究交流センター特任教授		＊ 輿水 達司	地質学、地下水学、地球環境科学
		＊ 池田 政子	心理学、ジェンダー研究

（＊ 運営委員）

４．年間の時系列記録

年　月　日	事業・行事名	部門名
2016年4月19日	第１回地域研究交流センター運営委員会	
2016年4月21日	前期授業開放講座受講申込み締切	生涯学習
2016年4月27日	第１回生涯学習部門会議	生涯学習
2016年5月17日	第２回地域研究交流センター運営委員会	
2016年5月26日	地域研究交流センターニューズレター「tobira」第２８号発行	情報発信
2016年5月31日	地域研究交流センター２０１５年度年報発行	情報発信
2016年5月31日	第１回地域研究部門会議	地域研究
2016年6月5日	日本語・日本文化講座（１）	生涯学習
2016年6月7日	地域研究事業評価委員会	地域研究
2016年6月11日	山梨チャリティーラン２０１６へのボランティア参加	交流・支援
2016年6月12日	日本語・日本文化講座（２）	生涯学習
2016年6月14日	地域研究事業選考委員会	地域研究
2016年6月14日	第３回地域研究交流センター運営委員会	
2016年6月17日	子育て支援リーダー実力アップ講座	生涯学習
2016年6月19日	日本語・日本文化講座（３）	生涯学習
2016年6月22日	幼児教育センター月齢別講座（人間福祉学部）（１）	生涯学習
2016年6月22日	第１回情報発信部門会議	情報発信
2016年6月23日	幼児教育センター月齢別講座（看護学部）（１）（２）	生涯学習
2016年6月24日	幼児教育センター月齢別講座（人間福祉学部）（２）（３）	生涯学習
2016年6月26日	日本語・日本文化講座（４）	生涯学習
2016年6月28日	幼児教育センター月齢別講座（看護学部）（３）	生涯学習

2016年6月29日	幼児教育センター月齢別講座（人間福祉学部）（4）	生涯学習
2016年6月30日	幼児教育センター月齢別講座（看護学部）（4）	生涯学習
2016年7月1日	幼児教育センター月齢別講座（人間福祉学部）（5）	生涯学習
2016年7月1日	子育て支援リーダー実力アップ講座	生涯学習
2016年7月3日	日本語・日本文化講座（5）	生涯学習
2016年7月5日	幼児教育センター月齢別講座（看護学部）（5）	生涯学習
2016年7月6日	幼児教育センター月齢別講座（人間福祉学部）（6）	生涯学習
2016年7月10日	日本語・日本文化講座（6）	生涯学習
2016年7月15日	子育て支援リーダー実力アップ講座	生涯学習
2016年7月19日	第4回地域研究交流センター運営委員会	
2016年7月24日	観光講座（1）	生涯学習
2016年7月24日	日本語・日本文化講座（7）	生涯学習
2016年7月25日	子育て支援リーダー実力アップ講座	生涯学習
2016年8月7日	子育て支援リーダー実力アップ講座	生涯学習
2016年8月26日	子育て支援リーダー実力アップ講座	生涯学習
2016年8月28日	甲府市池田地区総合防災訓練への参加・協力（看護学部）	交流・支援
2016年8月28日	観光講座（2）	生涯学習
2016年9月3日	秋季総合講座	生涯学習
2016年9月4日	観光講座（3）	生涯学習
2016年9月11日	観光講座（4）	生涯学習
2016年9月16日	子育て支援リーダー実力アップ講座	生涯学習
2016年9月24日	県民コミュニティーカレッジ（地域ベース講座）（1）	生涯学習
2016年9月26日	子育て支援リーダー実力アップ講座	生涯学習

2016年9月27日	第5回地域研究交流センター運営委員会	
2016年10月2日	観光講座（5）	生涯学習
2016年10月2日	日本語・日本文化講座（8）	生涯学習
2016年10月3日	後期授業開放講座受講申込み締切	生涯学習
2016年10月7日	子育て支援リーダー実力アップ講座	生涯学習
2016年10月8日	県民コミュニティーカレッジ（広域ベース講座）	生涯学習
2016年10月12日	地域研究交流センターニューズレター「tobira」第29号発行	情報発信
2016年10月14日	「ワクワク子育て親育ちプログラム」学習講座	生涯学習
2016年10月15日	県民コミュニティーカレッジ（広域ベース講座）	生涯学習
2016年10月15日	穴山町サンマ祭り2016	生涯学習
2016年10月15日	県民コミュニティーカレッジ（地域ベース講座）（2）	生涯学習
2016年10月16日	日本語・日本文化講座（9）	生涯学習
2016年10月18日	幼児教育センター月齢別講座（看護学部）（6）（7）	生涯学習
2016年10月18日	第6回地域研究交流センター運営委員会	
2016年10月19日	幼児教育センター月齢別講座（人間福祉学部）（7）	生涯学習
2016年10月20日	幼児教育センター月齢別講座（看護学部）（8）	生涯学習
2016年10月21日	幼児教育センター月齢別講座（人間福祉学部）（8）	生涯学習
2016年10月22日	県民コミュニティーカレッジ（地域ベース講座）（3）	生涯学習
2016年10月23日	日本語・日本文化講座（10）	生涯学習
2016年10月24日	ソーシャルワークセミナー	生涯学習
2016年10月27日	幼児教育センター月齢別講座（看護学部）（9）	生涯学習
2016年10月27日	国際政策学部共催英語特別講演会	生涯学習
2016年10月28日	幼児教育センター月齢別講座（人間福祉学部）（9）（10）	生涯学習

2016年10月28日	「ワクワク子育て親育ちプログラム」学習講座	生涯学習
2016年10月29日	県民コミュニティーカレッジ（地域ベース講座）（4）	生涯学習
2016年10月30日	日本語・日本文化講座（11）	生涯学習
2016年11月2日	幼児教育センター月齢別講座（人間福祉学部）（11）（12）	生涯学習
2016年11月5日	「やまなしの女性史を学ぶ」講座（1）	生涯学習
2016年11月10日	幼児教育センター月齢別講座（看護学部）（10）	生涯学習
2016年11月13日	「ワクワク子育て親育ちプログラム」学習講座	生涯学習
2016年11月13日	日本語・日本文化講座（12）	生涯学習
2016年11月15日	第7回地域研究交流センター運営委員会	
2016年11月19日	「やまなしの女性史を学ぶ」講座（2）	生涯学習
2016年11月20日	第2回生涯学習部門会議	生涯学習
2016年11月25日	「ワクワク子育て親育ちプログラム」学習講座	生涯学習
2016年11月27日	日本語・日本文化講座（13）	生涯学習
2016年12月2日	「ワクワク子育て親育ちプログラム」学習講座	生涯学習
2016年12月3日	健康講座	生涯学習
2016年12月4日	日本語・日本文化講座（14）	生涯学習
2016年12月11日	日本語・日本文化講座（15）	生涯学習
2016年12月16日	「ワクワク子育て親育ちプログラム」学習講座	生涯学習
2016年12月20日	第8回地域研究交流センター運営委員会	
2016年12月21日	第2回情報発信部門会議	情報発信
2016年12月27日	第2回地域研究部門会議	地域研究
2017年1月13日	学生優秀地域プロジェクト選考委員会	交流・支援
2017年1月17日	第9回地域研究交流センター運営委員会	

2017年1月18日	幼児教育センター月齢別講座（人間福祉学部）（13）（14）	生涯学習
2017年1月19日	幼児教育センター月齢別講座（看護学部）（11）（12）	生涯学習
2017年1月19日	山梨学講座（1）	生涯学習
2017年1月20日	幼児教育センター月齢別講座（人間福祉学部）（15）（16）	生涯学習
2017年1月24日	幼児教育センター月齢別講座（看護学部）（13）（14）	生涯学習
2017年1月25日	幼児教育センター月齢別講座（人間福祉学部）（17）	生涯学習
2017年1月25日	学生優秀地域プロジェクト認定式	交流・支援
2017年1月26日	幼児教育センター月齢別講座（看護学部）（15）	生涯学習
2017年1月26日	山梨学講座（2）	生涯学習
2017年1月27日	幼児教育センター月齢別講座（人間福祉学部）（18）	生涯学習
2017年2月2日	山梨学講座（3）	生涯学習
2017年2月4日	保育リカレント講座	生涯学習
2017年2月9日	第3回情報発信部門会議	情報発信
2017年2月9日	山梨学講座（4）	生涯学習
2017年2月21日	第10回地域研究交流センター運営委員会	
2017年3月5日	甲府市池田地区健康まつりへの参加・協力（看護学部）	交流・支援
2017年3月14日	2016地域研究交流センター研究報告会	地域研究
2017年3月14日	第11回地域研究交流センター運営委員会	

平成28年度前期 山梨県立大学 授業開放講座

受講生募集

深まる知識
広がる喜び

山梨県立大学では、
大学の正規の授業を受講できる授業開放講座を開講いたします。
学生たちと共に、もう一度学んでみませんか。

受講条件

高等学校卒業程度以上の学力を有する方、及び担当教員の定める選考条件を満たす方

開講予定科目 ※変更の可能性がございますので、要項でお確かめください。

- ・社会と歴史
- ・日本経済論
- ・環境社会学
- ・貿易論
- ・アジアの歴史I
- ・地域研究論
- ・中国の社会経済
- ・地域プロジェクト論
- ・社会言語学
- ・東アジアと日本
- ・地方自治体の国際協力
- ・日本語の歴史
- ・公的扶助論
- ・精神保健福祉に関する制度とサービスI
- ・精神保健福祉相談援助の基盤（専門）　他

受講料 1科目につき8,640円（教材費等は別途自己負担）

初回授業日 平成28年4月14日（木）より順次

試聴期間 平成28年4月14日（木）～平成28年4月21日（木）

受講申込期限 平成28年4月21日（木） 午後5時必着

募集要項（受講申込書・試聴申込書を含む）の入手方法

※3月下旬より要項の配付を開始します。

- ・山梨県立大学ホームページよりダウンロード
- ・山梨県立大学地域研究交流センターホームページよりダウンロード
- ・山梨県立大学飯田キャンパス学務課（A館1階）窓口での受け取り
- ・郵送（氏名、住所、電話番号、必要部数を明記の上、メールまたはFAXでご請求ください。）

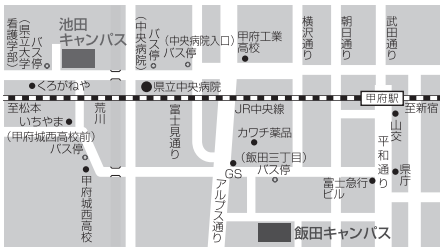
申し込み先・要項請求先

山梨県立大学地域研究交流センター（学務課）
TEL：055-224-5260（平日9：00-17：00）FAX：055-224-5386
E-mail：ucre-accept@yamanashi-ken.ac.jp

山梨県立大学
Yamanashi Prefectural University

飯田キャンパス（国際政策学部・人間福祉学部）
〒400-0035 山梨県甲府市飯田5-11-1
TEL 055-224-5261 FAX 055-228-6819

池田キャンパス（看護学部・大学院看護学研究科）
〒400-0062 山梨県甲府市池田1-6-1
TEL 055-253-7780 FAX 055-253-7781



2016 日本語・日本文化講座

日本で生活する
外国人のための

For foreigners living in japan
Japanese language and culture course
外國人生活在日本、
日本語言與文化課程
일본에서 생활하는 외국인을 위한
일본어 일본문화 강좌
Para os estrangeiros que vivem no japao
Curso de lingua e cultura japonesa
Para los extranjeros que viven en japon
Curso de lengua y cultura japonesa

甲府市役所市民課(企画)

山梨県立大学(教室)

	前期	後期
時　間	13:00　～　15:00	
講座日 （日曜日）	[6月] 5, 12, 19, 26日 [7月] 3, 10, 24日 (24日は文化講座「川柳」)	[10月] 2, 16, 23, 30日 [11月] 13, 27日 [12月] 4, 11日 (11日文化講座「茶道」)
※講座日は諸事情により変更する場合があります。		
受講料	無　料 ※教材料は自己負担 (2,000円～3,000円)	
場　所	山梨県立大学　飯田キャンパスA館6F	
駐車場	あ　り	

おといあわせ
☎お問合せ☎
山梨県立大学　学務課　TEL055-224-5260

主催：山梨県立大学 / 甲府市
連携：山梨県外国人人権ネットワーク オアシス
※受講にあたり、事前申請は不要です。

山梨県立大学観光講座 2016

山梨の自然と文化の再発見

富士山・南アルプス・八ヶ岳及び周辺域に豊かな自然や文化的景観を有する山梨県は、近年国内外からの訪問者が多くなってきています。しかし、これら地域を単に現在のしかも表層的な理解に限ることなく、この山梨の各地で展開されてきた人間生活の営みを、歴史的な流れを軸にして紐解くことで、多様な価値観が再認識されることと考え、このたびの講演会を企画しました。多くの県民の参加を希望します。

開催時間 **午後1時～午後4時30分**（受付は午後12時30分から）

開催場所 **山梨県立大学飯田キャンパス 講堂**（甲府市飯田5−11−1）

7月24日(日)　富士山と八ヶ岳の自然や文化の解説並びに最近の話題

世界文化遺産富士山の北麓の構成資産と参詣道 …… 富士河口湖町 教育委員会　杉本悠樹

八ヶ岳山麓の里山の自然 …… 北杜市 オオムラサキセンター館長　跡部治賢

8月28日(日)　古きを訪ね、現代の生活・文化を顧みる

南アルプス山麓の歴史を変えた遺跡の物語 …… 南アルプス市 教育委員会　斎藤秀樹

縄文人は何を食べたか …… 山梨県考古学協会　長沢宏昌

9月4日(日)　南アルプスの貴重な生物保護や麓における自然災害の取り組み

南アルプスのライチョウの現状と保護対策 …… やまなし野鳥の会　村山　力

南アルプスの土砂災害対策の歩み …… 国土交通省 富士川砂防事務所長　田中秀基

9月11日(日)　富士山・富士五湖の自然環境の変化特性と未来予測

富士五湖に記録された地球環境の変遷史 …… 山梨県立大学 特任教授　輿水達司

富士山の自然と地球温暖化 …… 静岡大学 客員教授　増沢武弘

10月2日(日)　甲府盆地と周辺地域の交流を探る

甲府盆地周辺「道の文化史」～縄文から現代へ～ …… 山梨県考古学協会　新津　健

信州から山梨・甲府盆地の城が語ること …… 山梨郷土研究会　山下孝司

参加申込：TEL.055−224−5260　FAX.055−224−5386

E-mail　ucre-accept@yamanashi-ken.ac.jp にてお申し込みください。

なお、FAXまたはE-mailの場合、件名として「観光講座への参加希望」をお書きいただき、氏名、電話番号、参加希望日を必ずご記入ください。

参加無料

主催：山梨県立大学　地域研究交流センター

公立大学法人
山梨県立大学
Yamanashi Prefectural University

山梨県立大学 地域研究交流センター

秋季総合講座

よりよく学び 生きるために

人はいくつになっても、学び続けることで成長し、
学び始めるのに遅すぎることはありません。
この機会に山梨県立大学を訪れてみませんか？
高校生から一般社会人の方まで、
多くの方々のご参加をお待ちしております。

右と左

講師：**山本 隆司** 理事

右と左！世の中や自然界には右と左の区分けがあって、社会ではそのルールにしたがうことが時に強く求められます。人工物の部品・要素・動きや、生物および動物のかたちにもその区分けが見られます。実社会や自然界で右と左の違いが見られるのはなぜか？皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

メディアは人生を豊かにするものなのか？

講師：**兼清 慎一** 准教授（国際政策学部）

私たちはなぜ、これほどまでにメディアに取り囲まれているのでしょうか。
メディアは私たちの社会を、私たちの人生を豊かにしているのでしょうか。
そもそもメディアは社会の中でどのように存在してきたものなのでしょうか。
メディアをめぐるさまざまな研究を紐解きながら、メディアと私たちの関係性をみなさんと一緒に考えたいと思います。

自分の体からの『メッセージ』をキャッチしよう!!

～まずは、脈拍測定から～

講師：**白田 梨奈** 助教（看護学部）

自分の体からは、一瞬一瞬、たくさんの『メッセージ』が発せられています。それらをキャッチすることによって、自分の体を守ることができます。そのキャッチ力を身につけるために、必要な科学的視点をお伝えしながら、みなさんと一緒に、自分の体からの『メッセージ』について考えてみたいと思います。

2016
9/3 土

時間 **13:30~16:00**
会場 山梨県立大学飯田キャンパス講堂

参加費無料 〈参加申し込み〉

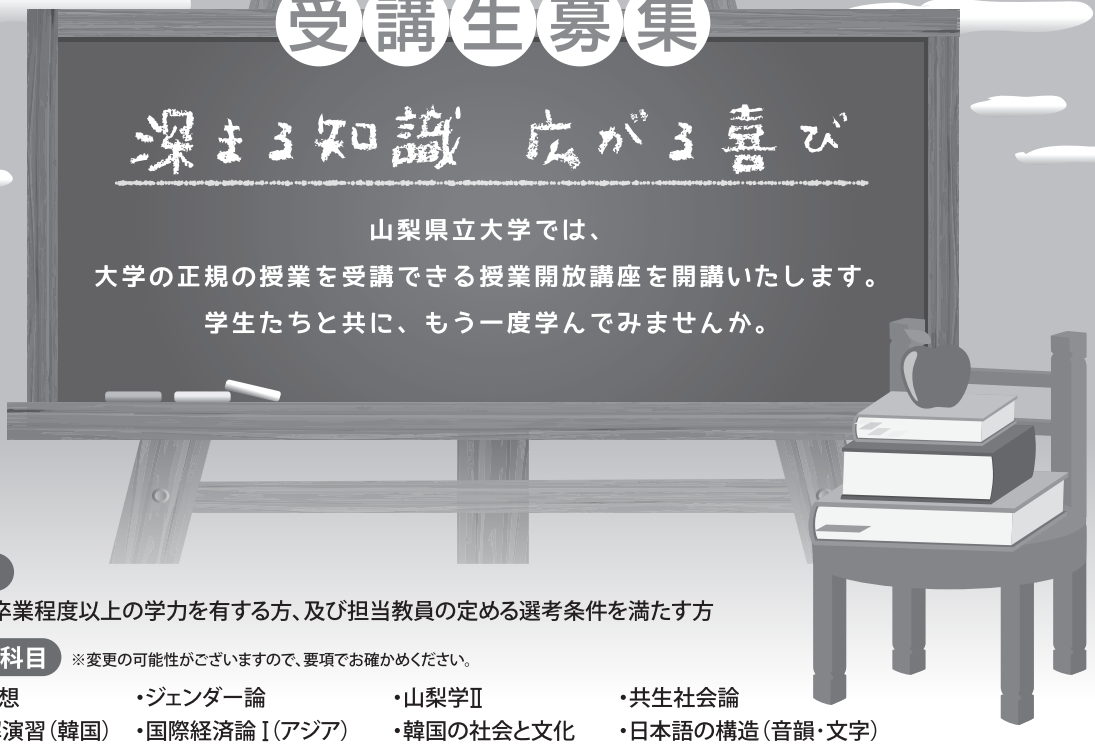
電話(055-224-5260)、FAX (055-224-5386)、Eメール(ucre-accept@yamanashi-ken.ac.jp) にてお申込み下さい。なお、FAXまたは、Eメールの場合、件名として「秋季総合講座への参加希望」とお書きいただき、氏名、電話番号を必ずご記入ください。**http://www.yamanashi-ken.ac.jp**

主 催：山梨県立大学地域研究交流センター

平成28年度後期　山梨県立大学

授業開放講座

受講生募集



山梨県立大学では、
大学の正規の授業を受講できる授業開放講座を開講いたします。
学生たちと共に、もう一度学んでみませんか。

受講条件

高等学校卒業程度以上の学力を有する方、及び担当教員の定める選考条件を満たす方

開講予定科目 ※変更の可能性がございますので、要項でお確かめください。

- ・人間と思想
- ・国際理解演習（韓国）
- ・文化政策論
- ・英文法１
- ・障がい児保育
- ・被服環境学
- ・ジェンダー論
- ・国際経済論Ⅰ（アジア）
- ・マスメディア論Ⅱ
- ・英語の構造（統語）
- ・対象理解Ⅱ（障害）
- ・多文化教育論（中・高）
- ・山梨学Ⅱ
- ・韓国の社会と文化
- ・メディア・リテラシー
- ・国際開発論
- ・障害者福祉論Ⅱ
- ・母性看護学Ⅰ
- ・共生社会論
- ・日本語の構造（音韻・文字）
- ・日中関係の歴史
- ・言語学概論
- ・精神疾患とその治療Ⅰ
- ・ケアのジェンダー学　他

受　講　料　１科目につき8, 640円

後期授業開始日　平成28年 9月26日（月）より順次

試 聴 期 間　平成28年 9月26日（月）～平成28年 9月30日（金）

受講申込期限　平成28年10月3日（月） 午後5時必着

募集要項（受講申込書・試聴申込書を含む）の入手方法

※8月下旬より要項の配付を開始します。

- ・山梨県立大学ホームページよりダウンロード
- ・山梨県立大学地域研究交流センターホームページよりダウンロード
- ・山梨県立大学飯田キャンパス学務課（Ａ館１階）窓口での受け取り
- ・郵送（氏名、住所、電話番号、必要部数を明記の上、メールまたはFAXでご請求ください。）

申し込み先・要項請求先

山梨県立大学地域研究交流センター（学務課）
TEL：055-224-5260（平日9：00-17：00）FAX：055-224-5386
E-mail：ucre-accept@yamanashi-ken.ac.jp

山梨県立大学
Yamanashi Prefectural University

飯田キャンパス（国際政策学部・人間福祉学部）
〒400-0035 山梨県甲府市飯田5-11-1
TEL 055-224-5261 FAX 055-228-6819

池田キャンパス（看護学部・大学院看護学研究科）
〒400-0062 山梨県甲府市池田1-6-1
TEL 055-253-7780 FAX 055-253-7781

平成 28 年度 県民コミュニティーカレッジ（地域ベース講座）

続 よりよく生きるために死ぬために

自分の生活、生き方を振り返ってみて、これからの人生の価値を見つめ直してみませんか。

第１回 9.24 土

「よく生きること」と「死を思うこと」
～「生」と「死」を哲学する～

山梨県立大学人間福祉学部教授　**藤谷　秀**

第２回 10.15 土

生きること、死ぬこと、そして文学にできること

山梨県立大学国際政策学部講師　**大村　梓**

第３回 10.22 土

音楽で より おトクに暮らそう
～晩年の作品から学ぶこと～

山梨県立大学人間福祉学部准教授　**村木 洋子**

第４回 10.29 土

死にゆく過程を癒す

山梨県立大学看護学部講師　**前澤 美代子**

時間：14 時～15 時半（受付は 13 時半から）
場所：山梨県立大学飯田キャンパス B 館講堂

参加申込〈参加費用は無料です〉

電話番号(055 - 224 - 5260)、ＦＡＸ(055 - 224 - 5386)、Ｅメール(ucre-accept@yamanashi-ken.ac.jp)にてお申込みください。なお、ＦＡＸまたはＥメールの場合、件名として「平成28年度県民コミュニティーカレッジ（地域ベース）」とお書きいただき、氏名、電話番号、参加希望日を必ずご記入ください。

◆主催：山梨県立大学　地域研究交流センター

公立大学法人
山梨県立大学
Yamanashi Prefectural University

山梨県立大学地域研究交流センター・国際政策学部共催

英語特別講演会

THE FIRST ENGLISH VOYAGE TO JAPAN, 1613

～英国船による日本への最初の航海～

17世紀初頭の日本は、英国人の目にどのように映ったのでしょう。

長い航海の様子から、日本国内における出来事、幕府の反応、宗教上の問題など、初めて日本を訪れた英国船の船長が残した記録をたどりながら、近世英国史を専門とする研究者グレアム・パリー教授が詳しく解説してくださいます。

講師　Professor Graham Parry

英国ヨーク大学名誉教授 グレアム・パリー先生

日時　平成28年10月27日（木）午後1時～2時30分

会場　山梨県立大学飯田キャンパスB館講堂

〒400-0035　山梨県甲府市飯田5‐11‐1

入場無料　　日本語解説あり　事前申し込み不要

お問い合わせ先

山梨県立大学学務課 電話 055-224-5260

メール ucre-accept@yamanashi-ken.ac.jp

国際政策学部 高野 メール english@yamanashi-ken.ac.jp

山梨県立大学地域交流センター　健康講座

ストレッチをとおして、
からだのメンテナンスをしましょう！！
ーみんなと楽しみながら、身体をほぐしてみませんか？ー

日時　平成 28 年 12 月 3 日（土）
　　午後 1 時 30 分～3 時 （受付：午後 1 時より）
会場　山梨県立大学　池田キャンパス　3 号館 101 講義室

講義：～からだの内側から、きれいになるためには～
実践：フットマッサージ、全身のストレッチ
　　体験をとおして、自宅で実施できる方法を学ぶ

講師　田中夕起子先生

所属・資格等
- エアロビクス Y's 代表
- 山梨フィットネス協会 Rien 会長
- エアロビクスインストラクター
- JMFA 認定ヨガインストラクター
- 日本マタニティフィットネス協会インストラクター
- エアロフットセラピーインストラクター
- PFA 認定ピラティスインストラクター

対象者：　男・女どなたでも！
服装：
　動きやすい服装（ジャージ）
　足指がすぐ出せるように、タイツ・ストッキングは着用せず、からだを伸ばせるように、過度にからだを締めつけない服装でご参加ください。
持ち物：大きめのバスタオル

＜お申し込み・お問い合わせ＞
山梨県立大学池田キャンパス
住所：〒400-0062　甲府市池田 1-6-1
TEL：055(253)7780　FAX：055(253)7781
お申し込みの際は、「お名前、ご年齢、ご性別、参加人数、ご連絡先」をお知らせください。
（事前にお申し込みがなくてもご参加いただけますが、資料準備等の関係上ご協力ください。）

入場無料

公立大学法人
山梨県立大学
Yamanashi Prefectural University

第8回 保育リカレント講座

「気になる子」とその保護者への支援

2017

2/4(土)

13:30~
16:00

会　場：山梨県立大学 飯田キャンパス講堂
定　員：70名（メール・電話で申し込み受付）
対　象：保育・教育関係者、一般、学生、その他
参加費：無料

講　師：　前嶋　元　先生

東京立正短期大学講師
臨床発達心理士、特別支援教育士、社会福祉士
日本福祉文化学会事務局長

問い合せ・お申し込み先

山梨県立大学地域研究交流センター　☎ 055-224-5260　✉ ucre-accept@yamanashi-ken.ac.jp
※Eメールの場合、件名を『保育リカレント講座申込み』とし、お名前・ご住所・電話番号をご記入ください。

主 催：山梨県立大学 人間福祉学部人間形成学科　　共 催：山梨県立大学 地域研究交流センター

2016年度

山梨県立大学 地域研究交流センター 研究報告会

地域社会の発展は コミュニケーションの 輪から生まれます。

山梨県立大学地域研究交流センターでは、大学の知的資源を有効に活用することによって地域社会の発展に寄与したいと考え、本学教員による地域貢献に資する研究に対して支援を行なって参りました。今年度もその成果を地域により広く発信し、より多く還元することを目的として「地域研究交流センター研究報告会」を実施します。
どうぞお気軽にご参加ください。

●開催日時
平成29年3月14日(火) 13:00～17:00

●開催場所
山梨県立大学
飯田キャンパス A館6階 サテライト教室 (甲府市飯田5-11-1)

プログラム

時　間	研究テーマ	研究者代表
13:10～13:40	穴切地区介護予防ネットワークの構築１ ～在宅高齢者に対する介護予防ニーズに関する研究～	福祉コミュニティ学科 講師 青柳 暁子
13:40～14:10	日本語を母語としない子どもたちの未来を考えるプロジェクト ～多言語による進路進学ガイダンス開催の意義～	国際コミュニケーション学科 准教授 萩原 孝恵
14:10～14:40	赤ちゃんの健康を守るための家族への スキルアップ支援	看護学科 准教授 宗村 弥生
14:40～15:00	休　憩	
15:00～15:30	山梨県の小学校における「外国語活動」の 効果的運営に関する実践的研究Ⅲ	国際コミュニケーション学科 准教授 高野 美千代
15:30～16:00	双方向型の高大連携による地域資源を 活かした授業モデルの構築	国際コミュニケーション学科 教授 二戸 麻砂彦
16:00～16:30	在留外国人の妊娠・出産・育児期における 行政保健師の支援	看護学科 講師 小尾 栄子
16:30～17:00	地域産業資源を活かしたビジネス開発と 絹織物文化の再興を考える ～甲斐絹文化の地域産業史的研究と 織物産業ネットワークの形成のために～	総合政策学科 教授 黒羽 雅子

参加方法 参加費無料で出入り自由です。
事前の申し込みも不要ですので、お気軽にご参加ください。

問い合せ先 **山梨県立大学 地域研究交流センター(学務課)** TEL055-224-5260

山梨県立大学
Yamanashi Prefectural University

2016年度　山梨県立大学　地域研究交流センター　年報

発行者：地域研究交流センター長　二戸 麻砂彦
編　集：地域研究交流センター　　情報発信部門
部門長　　藤谷　秀　　（福祉コミュニティ学科）
ケヴィン・ブラウン　（総合政策学科）
古屋　祥子　　（人間形成学科）
小尾　栄子　　（看護学科）
発行所：山梨県立大学地域研究交流センター
住所：〒400-0035　山梨県甲府市飯田5丁目11－1
TEL：055-224-5260　　FAX：055-224-5386
E-mail:ucre@yamanashi-ken.ac.jp
発行日：2017年5月31日

UCRE

University Center for Research and Exchange
山梨県立大学地域研究交流センター
〒400-0035　甲府市飯田５－１１－１
TEL 055-224-5260 FAX 055-224-5386